

科目名	日本史概説 I	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(前近代史)の概論（原始・古代から近世後期まで）		
授業の目的及び概要	日本列島が誕生する原始時代から江戸時代後期までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 原始・古代から近世中期までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・ 必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・ コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)『概論 日本歴史』(吉川弘文館) 2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありません。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・ 授業の概要・成績評価などについての説明。	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 旧石器時代から縄文時代にかけての日本と東ア	3 時間

		・テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 1 原始の日本列島について	ジアについて 2 弥生時代の日本と東アジアについて	
第2回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 2 倭王権の伸長について 3 古代国家への歩みについて①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 倭王権から大和政権への展開について 2 大王権力の伸長と東アジアの動向について 3 推古朝の政治と外交について	3 時間
第3回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 3 古代国家への歩みについて 古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大化の改新と改新政治について 2 天智朝に至る過程と対外関係について	3 時間
第4回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 壬申の乱について 2 天武・持統朝における中央集権化について 3 律令国家の成立と律令政治について	3 時間
第5回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成について③ 2 律令国家の成熟と展開について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 聖武朝の政治と社会について 2 奈良朝政争史について	3 時間
第6回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 2 律令国家の成熟について② 古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平安京遷都に至る過程について 2 桓武～嵯峨朝の政治と藤原北家の台頭について 3 延喜・天曆の治について	3 時間
第7回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化について② 2 地方支配の転換について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 摂関政治確立に至る過程とその政治について 2 土地制度史の変遷について	3 時間
第8回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 3 武士と荘園について Ⅱ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 武士の台頭と院政の展開について 2 保元・平治の乱と平氏政権の誕生について	3 時間
第9回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭について② 2 武家政権の確立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平氏政権の展開～滅亡について 2 鎌倉幕府の成立について	3 時間

第10回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 2 武家政権の確立について② 3 鎌倉後期の政治と社会について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 執権政治の成立とその展開について 2 得宗権力の確立と元寇について 3 農村社会の変容と御家人の窮乏について 4 鎌倉幕府の滅亡について	3 時間
第11回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 1 南北朝の内乱について 2 室町時代の政治と社会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 室町幕府の成立と南北朝の争乱の展開について 2 足利義満による南北朝の合一と幕府権力の強化について 3 日明勘合貿易について	3 時間
第12回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 2 室町時代の政治と社会について② 3 中世後期のアジアと日本について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 惣村の展開と土一揆・国一揆 2 中世の琉球・朝鮮・蝦夷地と倭寇について	3 時間
第13回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 4 戦国大名の時代について Ⅲ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 1 織豊政権について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 応仁の乱から室町幕府の崩壊過程について 2 戦国大名と家臣団、戦国大名の領国経営について 3 織田信長の登場から豊臣秀吉による天下統一について	3 時間
第14回	対面	テキストⅢ＝近世：第1章 幕藩体制の確立と鎖国 2 江戸幕府の成立について 3 幕藩体制の確立について 4 元禄・享保の文化と幕政について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 豊臣政権の崩壊から徳川家康による江戸幕府成立に至る過程について 2 家康から家光に至る武断政治期の政治と外交について 3 元禄期の政治・経済・社会について 4 8代将軍吉宗による享保の改革について	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業により、以下の2点を講義します。 ①テキスト第3部・近世の第2章「幕藩体制の動揺と解体」の中から、田沼時代・寛政の改革・天保の改革を解説します。 ②これまでの14回の講義を振り返るとともに、期末試験への対策について解説します。 以上で全15回の講義といたします。	動画をしっかりと視聴し、必要な事項はレジュメに書き込むなどして理解を深め、試験対策を万全なものとしてください。	4 時間

科目名	日本史概説 I	開講年度	2025
担当者	宮田 昌明	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史全般の概論（前近代）		
授業の目的及び概要	縄文時代から江戸時代末までの概説。前近代の日本史について、各時代の基礎的事項と特色、全体的流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必要な基本的知識や今後の学習のための基礎力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	縄文時代から江戸時代までの基本的な日本史の用語を理解する。 各時代を特徴づける現象について、説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の進度に応じて中間課題を課し、その結果に応じて授業の復習、再解説を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	特に指定しない
参考書	佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖（編集）『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年	ISBN	978-4634010734
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	20	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し受講する教科であるが、大学までの基礎事項の暗記を中心とした歴史と、各時代の様々な現象を総合し、また、時代と時代のつながりを論理的にとらえていく歴史は大きく異なる。社会に対する洞察力、理解力を高めていきたいという意識をもって、受講していただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要・成績評価などの説明。縄文時代と弥生時代の比較史的概説。	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 縄文時代が始まる要因と縄文時代の特徴 2 弥生時代への変化の要因	3.5 時間
第 2 回	対面	3～5 世紀の古墳時代における大和朝廷の成立と大陸との関係について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 近畿に古代政権が誕生した背景 2 氏姓制度について	3.5 時間

第3回	対面	5～6 世紀の国内政治と大陸との関係について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 大化の改新後の中央と地方の関係（特に評の設置について） 2 8～9世紀の税制について	3.5 時間
第4回	対面	奈良時代の内外関係と律令制について	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 白村江の戦いのもたらした日本への影響について 2 奈良時代から平安時代への変化の特徴について	3.5 時間
第5回	対面	中間まとめ1	第1回から第4回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6 時間
第6回	対面	平安初中期の中央・地方の統治機構	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 平安時代の政務のあり方 2 国司、名の成立、初期荘園について	3.5 時間
第7回	対面	摂関政治、院政、荘園の拡大と武士の誕生	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 摂関政治、院政と寄進地系荘園について 2 源氏や平氏の勢力拡大	3.5 時間
第8回	対面	鎌倉幕府の成立と在地領主	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 地頭や荘園をめぐる朝廷と幕府の関係 2 惣領制をめぐる幕府と御家人の関係	3.5 時間
第9回	対面	室町幕府、守護大名と国人、惣村	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 守護大名の形成 2 国人と惣村の関係	3.5 時間
第10回	対面	中間まとめ2	第6回から第9回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6 時間
第11回	対面	戦国大名の形成と領国経営	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 戦国時代への変化に伴う幕府と守護、守護と国人の関係 2 戦国大名の領国統治	3.5 時間
第12回	対面	全国統一と江戸幕府の成立	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 全国統一に向かう戦国末期の大名統治の変化 2 幕藩制下の幕府と大名の関係	3.5 時間
第13回	対面	幕藩制と家制度	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 江戸時代の、家を媒介とする幕府と大名ないし大名と家臣の関係 2 江戸時代の農村自治	3.5 時間
第14回	対面	江戸中後期の政治、経済、外交と幕末政局	以下の点について、特に理解を深めて置くこと。 1 18世紀以降の江戸幕府の経済政策 2 ペリー来航から大政奉還・王政復古に至る幕末政局の流れ	3.5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ3	第11回から第14回までの4テーマについて、特に「事前事後学習」に明記した点を中心に復習しておくこと。	6 時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(近現代史)の概論（近世末期から 1990 年代まで）		
授業の目的及び概要	幕末開港期から 1990 年代までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・幕末開港期から 1990 年代までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)『概論 日本歴史』(吉川弘文館) 2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありませんが、必要の場合は授業の中で提示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などに	以下の点について、特に理解を深めておくこと。	3 時間

		ついて。 ・テキストⅢ＝近世：第2章 幕藩体制の動揺と解体 3 開国と幕藩体崩壊崩壊について	1 なぜ日本は開国しなければならなかったのかについて 2 開国による貿易の開始は、日本の社会と政治にどのような影響を及ぼしたのかについて	
第2回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 1 明治政府の成立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 版籍奉還や廃藩置県など明治初年度の政治改革の内容とその影響について 2 地租改正や新貨条例など明治初年度の経済改革の内容とその影響について	3 時間
第3回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 1 明治政府の成立について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 岩倉遣外使節に始まる明治前期の初期外交について 2 学制、徴兵令などの欧米流の近代的制度の導入とその影響について	3 時間
第4回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 2 自由民権運動と政党について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 自由民権運動の展開から政党の結成に至るまでの過程について 2 大隈財政と明治十四年の政変について	3 時間
第5回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 2 自由民権運動と政党について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 松方デフレと激化事件について 2 松方財政とその後の企業勃興、さらに 1890 年恐慌について	3 時間
第6回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 3 帝国憲法と初期議会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大日本帝国憲法成立に至るまでの過程について 2 初期議会の動向について	3 時間
第7回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の成立 3 帝国憲法と初期議会について②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 明治初期の日清関係・日朝関係について 2 日清戦争開戦に至るまで経緯について	3 時間
第8回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 1 立憲政友会の成立と日清戦後の社会について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 初の植民地獲得と三国干渉について 2 日清戦後経営について 3 第一次大隈内閣の崩壊から立憲政友会の結成・旧自由党系の合流について	3 時間
第9回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 1 立憲政友会の成立と日清戦後の社会について② 2 大正政変前後について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 日清戦争後の社会運動について 2 桂園時代とはどのような時代であったかについて 2 韓国併合に至る過程について	3 時間
第10回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 2 大正政変前後について② 3 普選・治安維持法体制の成立について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大正政変に至る過程について 2 シーメンス事件について 3 第一次世界大戦下の日本の政治・外交について 4 大戦景気とはどのようなものであったかについて 5 米騒動と社会運動の発展について 6 原敬内閣の誕生からワシントン体制に至る過程について	3 時間
第11回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の発展と社会運動 3 普選・治安維持法体制の成立につ	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 戦後恐慌と震災恐慌について 2 護憲三派内閣の誕生と普通選挙法・治安維持法の成立過程について	3 時間

		いて② 第3章 アジア太平洋戦争 1 恐慌の時代 と政党内閣制 2 協調外交から積極外交へについて①	3 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 4 3の原因である対欧米・対中国の外交方針について	
第12回	対面	・テキストⅣ＝近代：第3章 アジア太平洋戦争 1 恐慌の時代 と政党内閣制 2 協調外交から積極外交へについて② 3 軍部の台頭について	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 1920年代の一連の恐慌と金解禁について 2 世界恐慌・昭和恐慌と日本の農村について 3 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 4 ロンドン海軍軍縮条約と協調外交の終わりについて 5 満州事変から満州国建国に至る過程について 6 高橋財政について	3時間
第13回	対面	・テキストⅣ＝近代：第3章 アジア太平洋戦争 4 二・二六事件 と近衛新体制運動 5 日中戦争からアジア太平洋戦争へについて V＝現代：第1章 戦後改革について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 二・二六事件から日中戦争に至る過程について 2 日本の南進と対米英蘭開戦について 3 戦局の悪化と敗戦について 4 敗戦直後の極度のインフレと金融緊急措置令について 5 GHQによる農地改革と財閥解体	3時間
第14回	対面	・テキストⅤ＝現代：第1章 戦後改革について② 第2章 復興と高度経済成長について①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 敗戦後の政党政治の復活について 2 アメリカの占領政策の転換について 3 朝鮮戦争と講和に続く高度経済成長の開始について 4 高度経済成長の実態について	3時間
第15回	オンデマンド	☆オンデマンドで講義を行います。 ・テキストⅤ＝現代：第2章 復興と高度経済成長について② 第3章 現代の世界と日本について ・これまでの授業の振り返りを行うとともに、レポート試験についての雛形をオンデマンド形式で解説します。	動画の講義をレジュメを参照しながら視聴し、視聴後はポイントをレジュメに書き込むなどして、試験準備を行ってください。	3時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	宮田 昌明	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史の通史（近代史）		
授業の目的及び概要	明治維新から 1970 年代までの日本政治史および外交史を中心とした概説。近代日本の内外情勢の推移を相互に関連付けながら理解することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	明治時代から 1970 年代までの基本的な日本史の用語を理解する。 各時代の重大事件の原因やその後の影響などについて、説明できるようになる。また、現代につながる日本の法制度の形成過程について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間課題を課し、その結果に応じて、授業の復習、再解説を行う予定。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	特に指定しない。
参考書	宮田昌明『満洲事変』PHP 研究所、2019 年	ISBN	978-4569842950
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	20	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し受講する教科であるが、大学までの基礎事項の暗記を中心とした歴史と、各時代の様々な現象を総合し、また、時代と時代のつながりを論理的にとらえていく歴史は大きく異なる。社会に対する洞察力、理解力を高めていきたいという意識をもって、受講していただきたい。 近現代史については、高校までの日本史では不十分なことが多い一方で、現代社会を理解するうえで必要な知識も多い。現代の政治、法律、社会に直接つながる歴史として、興味をもって講義に臨んでほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の全体像や成績評価の基準などについて／近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定） 1	江戸時代の統治システム（幕藩体制）について、理解を確認しておくこと。	4 時間

第2回	対面	近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定）2	廃藩置県の背景とその後の改革について、以下の点を踏まえて、理解を深めておくこと。 1 中央集権化の過程と中央の合議機関の形成 2 近代的な地方制度の形成	4 時間
第3回	対面	近代国家の形成（廃藩置県～明治憲法の制定）3	内閣制度の創設から憲法制定、初期議会の時期の政治史の流れについて、以下の点を踏まえて、理解を深めておくこと。 1 中央集権化の過程と中央の合議機関の形成 2 近代的な地方制度の形成	4 時間
第4回	対面	日清・日露戦争、韓国併合 1	近代外交のはじまりと明治初中期の日清・日朝関係、日清戦争開戦の原因について、理解を深めておくこと。	4 時間
第5回	対面	日清・日露戦争、韓国併合 2	日露戦争開戦の背景と韓国併合の経緯について、理解を深めておくこと。	4 時間
第6回	対面	20 世紀前半の政治、経済・社会政策 1	帝国憲法の下での政治のあり方と政党内閣の成立について、理解を深めておくこと。	4 時間
第7回	対面	20 世紀前半の政治、経済・社会政策 2	1920 年代の経済・社会政策および 1930 年代の政治・経済政策について、理解を深めておくこと。	4 時間
第8回	対面	日露戦後、1920 年代の日本外交と満州事変 1	日露戦後～1920 年代の日本外交について理解を深めておくこと。	4 時間
第9回	対面	日露戦後、1920 年代の日本外交と満州事変 2	戦前期の政軍関係と満州事変の背景について理解を深めておくこと。	4 時間
第10回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ 1	日中戦争勃発の背景について理解を深めておくこと。	4 時間
第11回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ 2	日中戦争の長期化から太平洋戦争の勃発までの流れについて理解を深めておくこと。	4 時間
第12回	対面	太平洋戦争の展開 1	太平洋戦争の全体経過について理解を深めておくこと。	4 時間
第13回	対面	太平洋戦争の展開 2	沖縄戦や特攻、太平洋戦争に終戦過程、東南アジア戦線の状況について理解を深めておくこと。	4 時間
第14回	対面	戦後世界秩序・アジア情勢と日本 1	終戦後、自由民主党が成立するまでの政治史の流れについて理解を深めておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	戦後世界秩序・アジア情勢と日本 2	1950 年代後半から 1970 年代はじめ頃までの世界情勢と日本情勢について理解を深めておくこと。	4 時間

科目名	外国史 I	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	近世イギリスの歴史的な展開を理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、近代への過渡期となる近世イギリスの歴史的展開を、研究史上の論争にも留意しつつ学ぶことで、一面的な歴史理解ではなく、物事を多面的に捉える歴史学の基本的な視座の養成に努めるものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、近世から近代へと至るイギリスの歴史的展開を学び、その基礎的な知識を得ることで、近代という時代の特徴や成り立ちを説明できるようになる。 第二に、一面的な歴史理解ではなく、近世・近代イギリス史に関する研究史上の論争にも留意することで、歴史的なものの見方や、バランスのとれた批判的精神を涵養する。 第三に、授業の内容を明瞭かつ論理的にまとめる能力、多様な史資料・図像を分析する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	【ガイダンス、異文化としての近世イングランド】 どのように授業を進めていくかを説明するとともに、現在の私たちの世界観や価値観とは大きな隔たりがある近世社会の歴史を学ぶためのガイダンスを行う。	【予習】高校までの世界史の教科書などを振り返っておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、近世社会の歴史を学ぶ上で必要な世界観についての理解を深める。	4時間
第2回	対面	【イングランドの宗教改革①】 イングランドの宗教改革の概説を理解する。	【予習】参考書②8-11頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第3回	対面	【イングランドの宗教改革②】 イングランド宗教改革に関する研究の変遷と論争を理解する。これによって、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】前回のレジュメをよく読んで、イングランド宗教改革の概説を確認しておく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第4回	対面	【初期スチュアート朝の財政問題】 チューダー朝以来の財政構造が破綻していたこと、チャールズ1世期にはその改革が試みられるも頓挫し、内戦／革命へと至る問題が準備されたことを学ぶ。	【予習】参考書①148-149頁、参考書②16-17頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第5回	対面	【内戦、三王国戦争、革命？】 かつて「ピューリタン革命」と呼ばれることが一般的であった17世紀半ばの政治的な大変動をめぐる研究史を題材に、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】参考書①170-171頁、参考書②17-21頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第6回	対面	【近世イングランドの貧困対策】 近世イングランドにおいて、貧困が社会問題として認識されるようになり、それへの対策が模索されたことを学ぶ。	【予習】貧困とは何か、自分なりに考えを整理してきてください。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第7回	対面	【ウィンスタンリと近世イングランドの入会地／権】 入会地（commons and wastes）を利用することで貧民の窮状を救おうとしたウィンスタンリについて学ぶ。	【予習】辞典や英語辞書などを用いて commons や wastes、入会地や入会権の意味を調べておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。	5時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【1665年のペスト大流行】 1665年のロンドンにおけるペスト大流行を題材として、前近代の社会と現代社会の相違について考えを深める。	【予習】新型コロナウイルスに翻弄され続けてきた2020年以降の現代世界の状況を振り返っておくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5時間
第9回	対面	【1666年のロンドン大火】 1666年のロンドン大火を事例に、災害後の都市復興や都市の水事情について理解を深める。	【予習】参考書②24-25頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第10回	対面	【王位継承排除危機と名誉革命】 「長い18世紀」のイギリスにおける統治体制を決定づけることとなる名誉革命に対する理解を深める。	【予習】参考書②28-33頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第11回	対面	【「投資社会」の拡大と南海泡沫事件】	【予習】参考書②44-45頁を事前によく読んでおく	4時間

		18 世紀におけるイギリスの金融市場の拡大について学ぶ。	こと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	
第12回	対面	【都市の消費文化】 18世紀イギリスにおける都市化の進展と、それにともなう消費文化の発展について学ぶ。	【予習】参考書①202－203 頁、参考書②58－59 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第13回	対面	【風刺画から見る 18 世紀のイギリス社会】 ウィリアム・ホーガースとジェームズ・ギルレイの風刺画から 18 世紀イギリス社会を学ぶ。	【予習】第 12 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第14回	対面	【民衆の政治文化】 民衆の政治文化、「モラル・エコノミー」という観点から 18 世紀イギリスにおける食糧暴動について理解する。	【予習】参考書①196－197 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信する。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2025
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	イギリスを中心にして、16－20 世紀にいたるまでの世界の歴史的な展開を学ぶことで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。		
授業の目的及び概要	本講義では、現在の私たちの生活や価値観にも大きな影響を及ぼしている近代イギリスの歴史的展開を概説する。その際に、イギリスが世界各地に植民地を有し、また自由貿易体制を世界規模で拡大しようとしたことに着目することで、現代世界の成り立ちについての理解を深めていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、世界各地に植民地を拡大し、やがて大英帝国を築き上げていったイギリスの歴史を通して、西洋近代の世界規模での影響を検討することで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。第二に、一つの歴史的な事柄に対する多様な研究のあり方を紹介することで物事を多角的かつ批判的にとらえる歴史的な思考を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	【ガイダンス、近代の西洋について学ぶことの意味】 どのように授業を進めていくかを説明するとともに、近代西洋の歴史を学ぶことの意義について自分なりに考えていくためのガイダンスを行います。	【予習】参考書①の i－vi 頁を読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、近代西洋の歴史を学ぶ上で必要な準備をする。	4 時間
第2回	対面	【覇権をめぐる闘争①：ポルトガル、スペイン】 ポルトガルとスペインがヨーロッパの外へと拡張をはじめていく要因と過程を学びます。	【予習】参考書①の 126－131 頁、194－195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第3回	対面	【覇権をめぐる闘争②：オランダ】 オランダが近代世界システムにおける覇権を掌握していく過程を学びます。	【予習】参考書①の 134－137、194－195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第4回	対面	【覇権をめぐる闘争③：イギリス】 近代世界システムにおける覇権がオランダからイギリスへと移っていく過程を学びます。	【予習】参考書①の 178－179 頁と、参考書②48－51、56－57 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第5回	対面	【イギリスによる環大西洋経済圏の確立】 環大西洋世界における優位を築いたイギリスが、大西洋奴隷貿易を土台として環大西洋経済圏を確立していった過程を学びます。	【予習】事前に参考書①の 192－193 頁と、第4回のレジメをよく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第6回	対面	【奴隷貿易および奴隷制の廃止】 イギリスが奴隷貿易および奴隷制を廃止していく過程を、人道主義的な観点と経済的な観点から学びます。	【予習】第5回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第7回	対面	【産業革命と生活水準論争】 イギリスにおける産業革命についての理解を深めるとともに、経済や社会の変動が人びとの生活にもたらした変化を学びます。	【予習】参考書①188－194 頁、参考書②52－53 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけること。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【清朝と大英帝国】 清朝に対して自由貿易を求め、アヘン戦争などの武力衝突に至った歴史事象から、イギリス帝国についての理解を深めます。	【予習】参考書②62－65 頁を事前によく読んでおくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけてくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第9回	対面	【奴隷制廃止と国際労働市場の変容】 前半で奴隷制が廃止された後の奴隷たちの処遇を、後半で奴隷にかわる労働力について、中国人移民労働者を事例に学びます。	【予習】第5－6回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第10回	対面	【帝国主義の時代】 イギリスを帝国主義的な政策を題材にし、帝国主義の時代についての理解を深めます。また、日本における帝国主義研究の変遷についても学びます。	【予習】参考書①230－231 頁、240－243 頁、参考書②84－85 頁、90－91 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第11回	対面	【イギリス帝国の危機：自由貿易か保護貿易か】	【予習】第8回、第10回のレジメを読んで、内容を整理しておくこと。	4 時間

		19 世紀末イギリスの経済的、軍事的な地位低下への危機感から生じた自由貿易政策の再検討について学ぶことで、イギリス帝国と近現代世界の歴史に関する理解を深めます。	【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	
第12回	対面	【ヘゲモニー国家が提供する国際公共財】 19世紀末以降のイギリスにおいて経済的・軍事的な地位低下への危機感が見られた一方で、世界経済のフレームワークやインフラの構築を通してイギリスが依然として世界規模で多大な影響力を維持し続けたことを学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第13回	対面	【イギリス帝国内の移民】 駒形丸事件を中心に近現代イギリスにおける移民について学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第14回	対面	【現代イギリスの多文化・多民族・多宗教】 世界の各地に植民地を有した帝国という歴史が、現代イギリスの多文化・多民族・多宗教的な状況を作りだしていることを学び、近現代の歴史と現代社会との結びつきについての理解を深めます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回、第13回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	4 時間

科目名	人文地理学 I	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は、中学校の社会科、高校の地理歴史科の科目である「地理」を教えるに際して不可欠な人文地理学の基本的な見方について、具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では、文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 1. 人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容	全 15 回の小テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。こうしたテストの受験不備による出席扱いを依頼する問い合わせには対応で	

		きません。小テストを受ける際は十分に注意して受験しましょう。
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の30%です。なお、小テストは全15回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全15回中10回以上の回答がない場合（6回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第15回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の40%です。テストを受験していない場合は、10回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の30%です。レポートを提出していない場合は、10回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全15回授業のうち、10回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の3点を満たした上で評価を行います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通じて見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第2回	オンデマンド	文化地理学：麺の文化地理と地誌 私たちの生活で麺類は切っても切り離せません。うどん、そば、パスタ、ラーメン、焼きそばなど調理方法まで含めれば、多種多様です。これらの麺文化の背景には小麦など穀物の生産が欠かせません。講義では、中国を中心に東アジア、東南アジアへと麺文化が波及していった麺文化の系統性や文化史を通して、東アジアや東南アジア全体における文化地理学的視点から麺と地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第3回	オンデマンド	文化地理学：魚醤・発酵の分布圏ー東南アジア・東アジアの食文化ー 東南アジアから東アジア地域の発酵食品、とりわけ魚醤と地域性について考察します。日本の食生活では魚醤と言われてもピンとこないかもしれません。調味料として有名なのはナンプラーです。しかし、そのルーツ、製造過程を見ていくと東南アジアから東アジアにかけて広がる「魚醤文化圏」が見えてきます。麺の文化地理学は中国を中心とした広がりでしたが、東南アジアを中心とした東アジアにわたる河川や海洋圏での広がりとして考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第4回	オンデマンド	文化地理学：ご当地グルメの背景と味覚の境界線	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4時間

		現在ではメディアの影響、コンビニや EC の発達によって気軽にご当地グルメを味わえるようになりました。特に「B 級グルメ」は、複数の書籍・SNS での情報もあり、観光資源となっている場合もあります。しかし、実際にはそれだけではなく、家庭料理での材料や味付けの違いといったものまであります。学修では、いくつかのご当地グルメを事例に、それらの地域の自然環境や歴史的な背景、地域差等について学修します。	と。	
第 5 回	オンデマンド	言語地理学：方言と地域性 一般的な感覚では、方言は国語の分野での研究となります。しかし、地理学や地誌学ではこうした他分野の領域も地域性を表すテーマとして取り上げることができます。明治時代以降、近代国家の建設において統一した教育政策は最重要課題のひとつでした。現代では、方言は地域の独自性やアイデンティティを示すものとして認識され、地域のまちおこしや観光資源の重要なコンテンツとして認識されています。学修では、方言圏論や方言の位置付けの変化、まちおこしの事例紹介、方言や言葉、地域そのものに対する人々のまなざしの変容について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第 6 回	オンデマンド	言語地理学：大阪の方言に見る地域差 私たちが日常的に使っている話し言葉には方言が含まれています。特に「関西弁」は全国的に有名です。学修では、大阪を事例にしながら大阪の各地で使われている方言の特徴や違いについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第 7 回	オンデマンド	農村地理学：農村社会の地理学 現代の日本の農村では人口減少・少子高齢化の傾向が著しいです。学修では、戦後の農村社会の変容や農業の変貌について概観し、現在の農村問題や農村政策について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第 8 回	オンデマンド	漁業地理学：漁業と地理学 日本は周辺を海に囲まれ、河川や湖も多数ある地理的環境から漁業が非常に盛んでした。しかし、第二次世界大戦以降、食文化の変化に伴って、水産物や水産加工物の消費量が激減しています。学修では、日本の漁業を取り巻く現状と大阪府の深日（ふけ）漁業協同組合の取り組みについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第 9 回	オンデマンド	社会地理学：環境循環社会：ラオスの農村社会を事例に ラオスは文化圏として世界で唯一のモチ米を主食とする文化圏です。また、昆虫食などが文化的に根付いた地域でもあります。ラオスの農村社会を事例に自然環境と人との環境循環型社会の在り方について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第 10 回	オンデマンド	地理教育学：地理的学習の重要性と地理総合に向けて	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		高校で「地理総合」が必修化されました。今後、地歴科の教員になるためには地理の指導が重要になってきます。残念ながら、現状では高校では地理の指導ができる教員は十分ではなく、地理総合必修化には大きな課題が残されています。学修では、小学校から高校までの地理的な学習を系統的に考察し、各段階における課題について考察します。		
第11回	オンデマンド	経済地理学：教育問題と地理学 家計に占める一人当たりの教育費は年々、増加しています。少子化による学区の統廃合、無計画な開発による特定の地域や地区の学校のマンモス校化、幼少期からの有名な学校への「お受験」等、教育問題は単なる学校や教育委員会における問題ではなく、地域の社会経済的な課題として認識しなければなりません。学修では、いくつかの地域を事例に学校の統廃合や学区制度における課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	経済地理学：地域資源とまちづくり 現在、多くの自治体が人口減少・少子高齢化という課題を抱え、地域資源を活用したまちづくりを実施しています。また、近年では地域活性化に関する関心も高く、大学生でも人気の学修や進路先として位置付けられています。学修では、いくつかの自治体の事例を考察し、地域資源の活用に関する成果と課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	都市地理学：日本の都市問題 日本は人口減少という課題に直面する一方で、東京・大阪・名古屋の三代都市圏では過密という課題があります。他方、地方の都市部では中心市街地の空洞化、ドーナツ化という課題があります。学修では、基本的な都市問題について事例を挙げながら考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	都市地理学：都市とプロ野球 日本では、三大都市圏を中心に都市部にプロ野球チームが本拠地を置いています。日本では明治時代以降、学校や企業がシンボルとして「野球」を位置付け、その後、職業野球（プロ野球）として人気を博してきました。いわば、プロ野球は都市文化のひとつとして位置付けることができます。プロ野球の球団史からみえる地域性や社会経済の発展について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	人文地理学とは：学修のまとめ・レポートについて 前期の学修についてふり振り返りながら、人文地理学における見方・考え方を総括します。また、まとめのテストやレポートについても解説を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	人文地理学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は、中学校の社会科、高校の地理歴史科の科目である「地理」を教えるに際して不可欠な人文地理学の基本的な見方について、具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。秋学期では、工業地理学、農業地理学、観光地理学、交通地理学、地図の活用、歴史地理学、地図学、風土と風景論、空間論、ライフヒストリーについて学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 1. 人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail で適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
その他の内容		全 15 回の小テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。こうしたテストの受験不備による出席扱いを依頼する問い合わせには対応で	

		きません。小テストを受ける際は十分に注意して受験しましょう。
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の30%です。なお、小テストは全15回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全15回中10回以上の回答がない場合（6回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第15回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の40%です。テストを受験していない場合は、10回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期限内に提出します。レポートは評価の30%です。レポートを提出していない場合は、10回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全15回授業のうち、10回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の3点を満たした上で評価を行います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。工業地理学、農業地理学、観光地理学、交通地理学、歴史地理学、地図学、風景論・空間論について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第2回	オンデマンド	工業地理学：日本・ヨーロッパ・アメリカの諸地域における工業地帯の変化 国家の近代化において「工業」は非常に重要です。工場が集積することで、そこに労働者が集まり、その労働者が飲食や居住するためのまちが形成されます。このように工業は都市化と密接に関係しています。学修では、日本・ヨーロッパ・アメリカの工業地帯の変遷について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第3回	オンデマンド	工業地理学：日本における工業の変化 日本の工業の特色と工業の変化に自動車産業を事例として考察しながら学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第4回	オンデマンド	地図学：世界の地図の歴史 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、いくつかの国の地図の歴史について概観し、時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第5回	オンデマンド	地図学：ヨーロッパから見た異世界 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、中世のヨーロッパの人たちが作成した地図を中心に、誤った情報、思	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間

		い込み、そうあってほしいと思う願望などから作られた地図について考察をします。言い換えれば、非科学的、うその地図ともいえるでしょうが、当時としてはそれが最新の情報でもありました。こうした時代を経て、近代地理学が誕生します。時代とともにそれぞれの国の人々ががどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します		
第6回	オンデマンド	観光地理学：観光学の定義と観光地の課題 観光は人がその地を訪れることによって成立する産業です。また、旅行者は訪問した土地ならではの楽しみ方を求めています。そのため他の産業とは違い、観光産業はその地域の第一次、第二次・第三次産業の全てに波及することから経済効果が高く、どの国や地域でも観光政策に力を入れています。学修では、観光学の基本的な考え方やその課題について学び、いくつかの事例を紹介しながら地理的なアプローチによる観光について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第7回	オンデマンド	観光地理学：沖縄を事例に 沖縄県はその立地的な特性から長年、日本本土から多くの観光客の「目的地」として観光産業が発展してきました。しかし、近年は、東アジアや東南アジアから「近くて安いリゾート地」として認識されています。また、「目的地」であった立場から、ハブ空港としての機能を強化し、中継地としての機能もあります。学修では沖縄の観光産業について考察します。	予習：不要 復習：スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間
第8回	オンデマンド	環境地理学 地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会の実現について学修を深めます。近年、SDGs（持続可能な社会）の概念が広く一般に知られるようになり、環境問題への関心がとても高まっています。身近な環境問題を考えるだけでなく、世界規模、地球規模での環境問題について学修を深めることで、より環境に対する理解を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	歴史地理学 アメリカの産業とメジャーリーグ スポーツ大国アメリカという側面からメジャーリーグを事例に、地理的な考察を行う。チーム名や本拠地とするスタジアム、フランチャイズにしている都市との関係など、アメリカの国技であるベースボールから都市の産業の盛衰・人口移動の歴史から地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。また、スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間
第10回	オンデマンド	歴史地理学：城郭と城下町 日本には複数の城下町が存在しています。こうした城下町では城郭を設計する段階で、城下町の都市計画も並行して考えられています。今昔マップも活用しながら複数の城下町の都市計画や特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。また、スライドにも示すが、各自で「今昔 map on the web」「Google map」のサイトを使って、任意の場所の従前の土地利用についても調べておくとい。	4 時間

第11回	オンデマンド	歴史地理学 「風土をいかに読み解くか～なぜ秀吉は伏見に城を築いたのか～」 歴史地理学的な視点から風土に関する学修を深めます。なぜ豊臣秀吉が伏見に城を築いたのかという観点から、交通・産業について地理的特徴から考察を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	歴史地理学：ならまち・岸和田市・貝塚市の歴史地理 事例としてならまち、岸和田市、貝塚市を取り上げます。特定の地域の地誌を事例として取り上げ、古代から現代まで考察します。学修を通して、地理的な見方・考え方の実践例として捉え、自身の興味・関心のある地域での調査等に役立てるようにしましょう。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	交通地理学：交通機関の発達と時間利用の変化 交通機関の発達は地域の様相やつながりを大きく変化させます。学修では、道路、鉄道、空路、水上輸送に関する事例から交通機関の発展と衰退によって、産業がどのように変化していったのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	空間論・風景論 地理学は空間を扱う研究領域です。同じ家庭・地域に住んでいても個人によって空間認識は異なります。また、同一人物であっても生活環境や年齢の違いによって空間認識は変化していきます。学修では、住環境や生活空間の変化とその背景、日常生活における空間や風景の見方・考え方についても考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	人文地理学とは：学修のまとめ・レポートについて 前期の学修についてふり振り返りながら、人文地理学における見方・考え方を総括します。また、まとめのテストやレポートについても解説を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間

科目名	自然地理学Ⅰ	開講年度	2025
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	気候・水文現象に関する基本的な科学的理解とそれらと人との関係		
授業の目的及び概要	気候現象や水文現象とは何か、どのような要素から成り立ち、どのような歴史的変化をたどってきたのか。そして、気候現象や水文現象が他の自然現象（地形や植生）や人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化、災害）など、水圏・気圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における気候・水文現象について、それらを地理学的に捉え、理解でき、説明することができる。また、気候・水文現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問があれば、メールで送ってください。それについて翌回あるいは翌々回の授業で回答します。授業後の課題レポートについて、翌回あるいは翌々回の授業で講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地理学基礎シリーズ2 自然地理学概論，高橋日出男・小泉武栄，朝倉書店，2008 年	ISBN	9784254168174
参考書	学んでみると気候学は面白い，日下博幸，ベレ出版，2013 年	ISBN	978-4860643621
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画、進め方、留意事項などの説明	授業前に、自然地理学、気候学、水文学とはどのような学問なのかをテキストを読んで大枠を把握する。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	2.5 時間
第2回	オンデ	気候要素（気温・降水）	授業前に、テキスト2章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4 時間

	マンド			
第3回	オンデマンド	気候要素（気圧・湿度）	授業前に、テキスト3章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第4回	オンデマンド	熱収支と大気大循環	授業前に、テキスト4章1～4を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第5回	オンデマンド	気候区分	授業前に、テキスト3章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第6回	オンデマンド	モンスーン	授業前に、テキスト4章5を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第7回	オンデマンド	都市気候	授業前に、テキスト5章1を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第8回	オンデマンド	地域スケールの気候	授業前に、テキスト5章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第9回	オンデマンド	日本の気候	授業前に、テキスト6章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第10回	オンデマンド	気候変動	授業前に、テキスト7章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第11回	オンデマンド	地球温暖化	授業前に、テキスト15章1を読んでおく。 授業後に、気候変動に関する課題レポートを行い、期日までに提出する。	4時間
第12回	オンデマンド	水の循環・水資源	授業前に、テキスト13章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第13回	オンデマンド	気象災害	授業前に、テキスト14章3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第14回	オンデマンド	地球規模の環境問題	授業前に、テキスト15章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	5.5時間

科目名	自然地理学Ⅱ	開講年度	2025
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	地形や土壌・植生に関する基本的な科学的知識ならびにそれらと人との関係についての理解		
授業の目的及び概要	地形やそれを構成する土壌や地質，またその上に成立する植生とは何か，どのような要素から成り立ち，どのような歴史的変化をたどってきたのか．そして，地形や土壌，植生が人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化，災害）など，地圏・生物圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における地形・土壌・植生について，それらを物質収支と歴史的側面から捉え，説明することができる。また，地形・土壌・植生といった自然現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問があれば，メールで送ってください。それについて翌回あるいは翌々回の授業で回答します。授業後の課題レポートについては，翌回あるいは翌々回の授業で講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地形のきほん，目代邦康・笹岡美穂，誠文堂新光社，2025 年	ISBN	9784416723715
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画，進め方，留意事項などの説明	授業前に，身の回りにある地形，土壌，植生について，中学，高校までの学習内容を思い出し，整理しておく。 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する。	2.5 時間

第2回	オンデマンド	世界と日本の大地形	授業前に、テキスト Chapter1 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第3回	オンデマンド	日本列島の地質と地形	授業前に、テキスト Chapter2, 4 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第4回	オンデマンド	第四紀と氷河時代	授業前に、テキスト Chapter 1「気候変化と地形」を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第5回	オンデマンド	斜面地形と斜面プロセス	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第6回	オンデマンド	変動地形	授業前に、Chapter 2「活断層がつくる地形」を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第7回	オンデマンド	山地の地形	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第8回	オンデマンド	火山の地形	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第9回	オンデマンド	平野の地形	授業前に、テキスト Chapter 3 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第10回	オンデマンド	海岸の地形	授業前に、テキスト Chapter 3 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第11回	オンデマンド	土壌地理学	授業前に、事前に配布する資料を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第12回	オンデマンド	生物地理学	授業前に、事前に配布する資料を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第13回	オンデマンド	地震災害	授業前に、テキスト Chapter 5 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第14回	オンデマンド	山地災害	授業前に、テキスト Chapter 2 を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	5.5 時間

科目名	地誌 I	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌 I」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。e-mail 等にて質問を受け付けます。提出された課題に対しても Learning Portal を活用してコメントを付す。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。各回の講義で適宜、文献、参考書を紹介する。	ISBN	なし
参考書	①世界の国々を調べる, 矢ヶ崎典隆編, 古今書院, 2007 ②図説世界の地誌, 辰己勝・辰巳真知子, 古今書院, 2016	ISBN	①9784772241526 ②9784772241915
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
その他の内容		全 15 回の小テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠	

		席扱いとなります。こうしたテストの受験不備による出席扱いを依頼する問い合わせには対応できません。小テストを受ける際は十分に注意して受験しましょう。
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の 30% です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 10 回以上の回答がない場合（6 回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 15 回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の 40% です。テストを受験していない場合は、10 回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の 30% です。レポートを提出していない場合は、10 回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全 15 回授業のうち、10 回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の 3 点を満たした上で評価を行います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方・考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	Lerning Portal に掲載する第 1 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 2 回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界 4 位、人口は世界 2 位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界 1 位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界 1 位です。こうした急速な経済成長は 1990 年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 2 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 3 回	オンデマンド	朝鮮半島 韓国の地誌 朝鮮半島・韓国を事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	Lerning Portal に掲載する第 3 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第 4 回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16 世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19 世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スバ	Lerning Portal に掲載する第 4 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

		ン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。		
第5回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中部、世界的観光地プーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデーン村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。	Lerning Portal に掲載する第5回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第6回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は8つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023年にインドは中国を抜き、人口が14億2860万人となり世界1位となりました。2050年には16億7000万人になると予想されており、地球の総人口の2割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	Lerning Portal に掲載する第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第7回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁があまりないと感じることもありますが、石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	Lerning Portal に掲載する第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大な砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の	Lerning Portal に掲載する第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

		経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。		
第9回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには50の主権国家と6つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は14、宗教や民族も複雑かつ多様性に富んでいます。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在ではEUを中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第10回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	Lerning Portalに掲載する第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第11回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の20%が他民族であり、バルト3国や中央アジア5カ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第12回	オンデマンド	北アメリカ アメリカ合衆国 カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICTや航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテインメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	Lerning Portalに掲載する第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第13回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地	Lerning Portalに掲載する第13回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林などが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第14回	オンデマンド	オセアニア オーストラリア ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	Lerning Portal に掲載する第 14 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第1回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。また、学修のふり返りに合わせて、フィードバックも行います。レポートに関する解説・諸注意も行います。	Lerning Portal に掲載する第 15 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	地誌Ⅱ	開講年度	2025
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅰ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。e-mail 等にて質問を受け付けます。提出された課題に対しても Learning Portal を活用してコメントを付す。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。各回の講義で適宜、文献、参考書を紹介する。	ISBN	0
参考書	①世界の国々を調べる, 矢ヶ崎典隆編, 古今書院, 2007 ②図説世界の地誌, 辰己勝・辰巳真知子, 古今書院, 2016	ISBN	①9784772241526 ②9784772241915
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
その他の内容		全 15 回の小テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠	

		席扱いとなります。こうしたテストの受験不備による出席扱いを依頼する問い合わせには対応できません。小テストを受ける際は十分に注意して受験しましょう。
この科目の受講にあたって	成績については以下に沿って評価をします。 ①各回では小テストを実施しています。小テストは評価の30%です。なお、小テストは全15回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全15回中10回以上の回答がない場合（6回以上回答していない）は、レポート提出やまとめの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第15回の学修後は学修のまとめテストを行います。このテストは評価の40%です。テストを受験していない場合は、10回以上の小テストの受験、レポート提出があっても単位取得ができません。 ③レポート提出は所定の形式に従って期日内に提出します。レポートは評価の30%です。レポートを提出していない場合は、10回以上の小テスト、まとめテストの受験があっても単位取得ができません。 全15回授業のうち、10回以上の小テストの回答、まとめテストの受験とその点数、レポートの提出と内容の3点を満たした上で評価を行います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方・考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	Lerning Portal に掲載する第1回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第2回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界4位、人口は世界2位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界1位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界1位です。こうした急速な経済成長は1990年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	Lerning Portal に掲載する第2回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第3回	オンデマンド	朝鮮半島 韓国の地誌 朝鮮半島・韓国を事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	Lerning Portal に掲載する第3回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第4回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スバ	Lerning Portal に掲載する第4回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		ン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。		
第5回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中部、世界的観光地プーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデーン村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。	Lerning Portal に掲載する第5回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第6回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は8つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023年にインドは中国を抜き、人口が14億2860万人となり世界1位となりました。2050年には16億7000万人になると予想されており、地球の総人口の2割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	Lerning Portal に掲載する第6回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第7回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁があまりないと感じることもありますが、石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	Lerning Portal に掲載する第7回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大な砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の	Lerning Portal に掲載する第8回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

		経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。		
第9回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには50の主権国家と6つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は14、宗教や民族も複雑かつ多様性に富んでいます。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在ではEUを中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第9回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第10回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	Lerning Portalに掲載する第10回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第11回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の20%が他民族であり、バルト3国や中央アジア5カ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。	Lerning Portalに掲載する第11回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第12回	オンデマンド	北アメリカ アメリカ合衆国 カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICTや航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテインメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	Lerning Portalに掲載する第12回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間
第13回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地	Lerning Portalに掲載する第13回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4時間

		理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林などが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第14回	オンデマンド	オセアニア オーストラリア ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	Lerning Portal に掲載する第 14 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第1回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。また、学修のふり返りに合わせて、フィードバックも行います。レポートに関する解説・諸注意も行います。	Lerning Portal に掲載する第 15 回授業資料を授業後に読んで復習しておくこと	4 時間

科目名	社会学概説	開講年度	2025
担当者	稲葉 渉太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	社会学における基本的な考え方、理論、手法などについて学び、現代社会における諸課題について考える。		
授業の目的及び概要	・本講義は、社会学における入門講義として位置づけられるが、現代社会における様々なトピックや事象を取り上げ、社会学に関連する基本的な知識や研究スキルを幅広く学ぶことを目的とする。 ・具体的には、「人びとが人生で経験するできごとに沿って展開」（筒井・前田 2017: 9）される教科書に基づいて、どのように私たちの生活が社会とかかわっているのかを理解し、関連する時事問題についてグループディスカッションやグループワークで検討する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を主な到達目標とする。 ①社会学の基本的なものの見方、考え方、社会学の基礎理論を学ぶ。 ②授業で身に付けた社会学的な見方から、日常生活における様々な社会現象を読み解き、考えることができる。 ③関心をもっている社会問題について、社会学的な視座から読み解き、自らの考えや意見を表現(発表・記述)することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義時に振り返りシート(感想シート)への記入をしてもらい、それに対してコメントを付して返却を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会学入門, 筒井淳也・前田泰樹, 有斐閣, 2017 年	ISBN	9784641150461
参考書	社会学の力, 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留, 有斐閣, 2017 年	ISBN	9784641174306
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	◇社会学概説の授業ガイダンス ・本講義の進め方や受講するにあたっての留意点(授業の内容や評価方法など)についての確認を行う。	事前学習：シラパスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読み、復習しておくこと。	4 時間
第2回	対面	◇「なぜ子供が生まれなくなっているのか」 ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	◇妊娠、出産という経験はどのように変わっているのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	◇なぜ学ぶことが「義務」になっているのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	◇学校という場所はどのような場所か ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	◇「働くこと」の社会的な位置付け ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	◇「社会」のなかで働くこと ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	◇近代化は家族をどう変えてきたのか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	◇家族であるとはどのようなことか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	◇統計学と医療はどうかかわってきたか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	◇病むこと・老いることは、どのような経験か	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。	4 時間

		・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を再読する。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	
第12回	対面	◇社会学は自殺をどう扱ってきたか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	◇社会において「死」はどのようにみえるか ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	◇「社会」人とのかかわり方 ・教科書の指定範囲に基づいて講義を行う。 ・上記のテーマに関連する時事問題について、グループで検討する。	事前学習：授業で扱う教科書の指定範囲に目を通し、予習しておくこと。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、教科書の指定箇所を読む。また、出題されている課題に答え、授業内容を復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	◇社会学の総括：社会学における研究方法 ・これまで本講義で取り上げてきた内容を総括し、知識の定着を図る。 ・教科書を通して学んだ社会学で用いられる量的調査・質的調査などの主要な研究方法について改めて概観し、期末課題に向けた最終整理を行う。	事前学習：第1回～第14回までの講義内容について基本事項を確認してくること。 事後学習：本講義全体で学んだ社会学の基本理論・専門用語などについて補足事項を調べ、ノートやデータに整理しておくこと。	4 時間

科目名	哲学概説 I	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の歴史と課題—古代・近代・現代		
授業の目的及び概要	西洋哲学史上の代表的な哲学者について基本的知識を身に付け、彼らの問題を内側から理解すること。また、古代哲学と近代哲学の特徴を全体として感じ取り、そのうえで現代を生きるわれわれにとっての哲学的課題を自ら問い尋ねてゆくこと。それがこの授業の目的です。 授業はプラトン、アリストテレス、デカルト、カント等の原典翻訳に即して進められますが、受講生には、なじみのない固有名詞や難解な概念・論証を単に情報としてインプットすることにとどまらず、哲学者たちの思考を追体験することで自分自身の思考のなかに血肉化することが期待されます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）西洋哲学史上の代表的な哲学者について、固有名詞とその鍵概念を知り、その内容について説明できる 2）古代哲学と近代哲学について、それぞれの特徴と相互の差異を俯瞰的に把握し、それを論述できる 3）以上1）2）を踏まえつつ、現代の哲学的課題を自分なりに把握し、アプローチの仕方を提案できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物をコメントつきで返却する		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『シグマベスト 理解しやすい倫理』（藤田正勝著、文栄堂、2015 年）	ISBN	978-4-578-24209-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	哲学とは何か	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身に履修に適した科目が確認すること。	4 時間
第2回	対面	ギリシア哲学	【予習】 教科書 pp. 40-44 を読んで、その内容に即した問い・疑問を3つ以上、用意してくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	プラトンとイデア論	【予習】 教科書 pp. 44-51 を読み、プラトンに関する内容をまとめたうえで、そのイデア論に対する賛否を自分なりに述べること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	アリストテレスと哲学の体系	【予習】 教科書 pp. 51-56 を読んで、その内容を踏まえつつ、古代ギリシア人の自然観・宇宙像について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	アウグスティヌスとキリスト教	【予習】 教科書 pp. 57-70 を読んでキリスト教(思想)について大づかみに理解した上で、キリスト教徒が十字を切って祈ることの意味についてできるだけ詳しく調べてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	コペルニクスと科学革命	【予習】 教科書 pp. 198-201 を参考に、「科学革命」について調べてくること。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	デカルト『方法序説』およびベーコン『ノヴム・オルガヌム』と学問の方法	【予習】 教科書 pp. 201-207 を読み、デカルトの演繹法とベーコンの帰納法についてまとめてくること。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	スピノザ『エチカ』およびライプニッツ『人間知性新論』と大陸合理論	【予習】 教科書 p. 206「物心二元論」および、pp. 209-210「合理論」について読み、「物心二元論」にどのような難問があるか考えてくること。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	ロック『人間知性論』およびヒューム『人間本性論』と英国経験論	【予習】 教科書 pp. 208-209 を参考に、ジョン・ロックについて調べてくること。 【復習】	4 時間

			返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第10回	対面	カント『純粋理性批判』と形而上学	【予習】 教科書 pp. 220-225 を参考に、カントの「第一アンチノミー」について調べてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	コント『実証哲学講義』とフランス革命	【予習】 教科書 pp. 248-249 を参考に、コントのフルネームと生涯について調べてくること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第12回	対面	ウィリアム・ジェームズ『プラグマティズム』から考える	【予習】 アメリカ人とはどのような人々か？ その国民性について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』から考える	【予習】 「世界」とは何か？ 自分なりに定義してみること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	サルトル『実存主義とは何か』から考える	【予習】 「ペーパーナイフ」について調べてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	哲学の歴史と課題—復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【復習】 これまでのワークシートと教科書の対応範囲について抜かりなく復習してくること。	4 時間

科目名	哲学概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の現代―社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズム		
授業の目的及び概要	現代の哲学へ入門するため、この授業では社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズムの思想を学びます。具体的には、マルクス、キェルケゴールやニーチェやハイデガー、ウィトゲンシュタイン、フーコー、シュヴァイツァーなどの思想を学びます。それぞれの哲学者がどのような問題関心のもと・何を・どのように論じているのか、じっくり腰を据えて考えてゆきましょう。。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）それぞれの思想について、その哲学的文脈を理解し、他者に説明できる 2）それぞれの哲学者の問題意識と創意とを、テキストに内在的に理解し、他者に説明できる 3）以上1）2）を踏まえて、自身の解釈を提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントを付して返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『シグマベスト 理解しやすい倫理』（藤田正勝著、文栄堂、2015 年）	ISBN	978-4-578-24209-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	西洋哲学史概観	【予習】 シラバスを読んでくること。	4 時間

			【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認すること。	
第2回	対面	功利主義	【予習】 教科書 pp. 238-242 を読んで功利主義の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	マルクス	【予習】 教科書 pp. 242-248 を読んで、社会主義の思想について簡潔にまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	キェルケゴール	【予習】 教科書 pp. 255-257 を読んで、キェルケゴールの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	ニーチェ	【予習】 教科書 pp. 257-259 を読んで、ニーチェの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	ハイデガー	【予習】 教科書 pp. 260-262 を読んでハイデガーの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	ヤスパースとサルトル	【予習】 教科書 pp. 259-264 を読んでヤスパースとサルトルの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	フロイトとユング	【予習】 教科書 pp. 264-267 を読んでフロイトとユングの考えをまとめてくること。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	フランクフルト学派	【予習】 教科書 pp. 270-271 を読んでフランクフルト学派の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	アーレント	【予習】 教科書 p. 282 を読んでアーレントの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間

第11回	対面	構造主義	【予習】 教科書 pp. 272-274 を読んで構造主義の思想をまとめること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第12回	対面	ウィトゲンシュタイン	【予習】 教科書 pp. 269-270 を読んでウィトゲンシュタインの思想をまとめること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第13回	対面	クーン	【予習】 教科書 p. 287 を読みクーンの思想をまとめること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第14回	対面	ポスト構造主義	【予習】 教科書を読みポスト構造主義の思想をまとめること。 【復習 p. 274】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	現代のヒューマニズムー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp. 275-280 を読み現代のヒューマニズムの思想をまとめること。	4時間

科目名	倫理学概説 I	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理思想の体得—中国思想と仏教から日本思想へ		
授業の目的及び概要	近代以前の日本の倫理思想はおもに中国思想と仏教を背景として展開してきました。本講義では、このふたつの伝統思想についての踏み込んだ理解のために、それぞれの思潮の思想家がどのような考えを提示したのかを確認します。そのうえで日本思想を学びます。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）中国思想および仏教の基本事項について理解し、他者に説明できる 2）古代から近世までの日本思想史の流れを理解し、他者に説明できる 3）古典が読まれてきた仕方を理解し、自らもその読解に参入できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 提出物は原則として次の回の授業冒頭に返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理, 藤田正勝著, 文栄堂, 2015 年	ISBN	①9784578242093
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	1 「倫理」と「倫理学」の異同について 2 高校「倫理」と日本思想史について	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認	4 時間

			認すること。	
第2回	対面	1 『論語』とはどのような書物か 2 『論語』はどのように読まれてきたか	【予習】 教科書を読み、自分なりに調べ、次の3点について考えてくること。 ①『論語』とはどのような書物か？ ②孔子とはどのような人物か？ ③『論語』を読むとはどういうことか？ 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第3回	対面	仏教の起源	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第4回	対面	仏教の広がり	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第5回	対面	朱子学と陽明学	【予習】 教科書 pp. 140-144 を読んで朱子学と陽明学についてまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第6回	対面	神道	【予習】 教科書 pp. 112-117 を読んで神道についてまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第7回	対面	聖徳太子	【予習】 教科書 pp. 118-119 を読んで聖徳太子の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第8回	対面	最澄と空海	【予習】 教科書 pp. 120-122 を読んで最澄と空海の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第9回	対面	鎌倉新仏教（1）——法然・親鸞・一遍	【予習】 教科書 pp. 124-130 を読んで法然・親鸞・一遍の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第10回	対面	鎌倉新仏教（2）——栄西・道元・日蓮	【予習】 教科書 pp. 130-134 を読んで栄西・道元・日蓮の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間

			行うこと。	
第11回	対面	林羅山・山崎闇斎・中江藤樹	【予習】 教科書 pp. 140-142 を読んで林羅山・山崎闇斎・中江藤樹の思想をまとめてくること 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第12回	対面	伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠	【予習】 教科書 pp. 143-145 を読んで伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠について調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第13回	対面	明六社と福沢諭吉	【予習】 教科書 pp. 154-156 を読んで明六社と福沢諭吉についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第14回	対面	西田幾多郎	【予習】 教科書 pp. 163-164 を読んで西田幾多郎についてまとめてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	日本倫理思想史の振り返りー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【復習】 ノート等に即してこれまでの授業内容について細密に確認してくる。	4時間

科目名	倫理学概説Ⅱ	開講年度	2025
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理学の歴史と課題―青年期の心理と現代の課題		
授業の目的及び概要	倫理学の主要な立場について基本的知識を身に付け、それぞれの立脚点や相互の対立点を理解すること。また、そのうえで現代の応用倫理学の諸問題に触れ、われわれが直面している諸問題について倫理学的観点から考察を深めること。それがこの授業の目的です。。これによって、これからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）青年期の心理をめぐる諸問題を理解し、それを説明できる 2）現代の応用倫理学の諸問題について、事例を具体的に知り、1）の諸原理・諸原則と関連付けて捉えられる 3）とくに関心のある現代の問題について、倫理学的観点から論点を整理し、自身の立場を説得的に提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントをつけて返却します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理，藤田正勝著，文栄堂，2015 年	ISBN	①9784578242093
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	青年期の倫理と現代の課題	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】	4 時間

			再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目が確認すること。	
第2回	対面	人間とは何か	【予習】 教科書 pp. 11-15 を読んで、人間とは何かをめぐる思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	欲求と防衛機制	【予習】 教科書第1章第2節を読んで欲求と防衛機制についてまとめてくること 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	エリクソンとライフサイクル	【予習】 教科書第1章第2節を読んでエリクソンのライフサイクル理論についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	パーソナリティ	【予習】 教科書第1章第2節を読んでパーソナリティの心理学の要点をまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	青年期の課題	【予習】 教科書第1章第2節を読んで「青年期」とは何かについて自分なりの理解を形成しておくこと。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	生命の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 297-300 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	生命の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 300-304 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	環境の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 305-307 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	環境の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 307-310 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	家族をめぐる問題	【予習】	4 時間

			教科書 pp.311-315 を読んで家族をめぐる問題について調べてくること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第12回	対面	地域社会をめぐる問題	【予習】 教科書 pp.316-317 を読んで地域社会をめぐる問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	情報の倫理	【予習】 教科書 pp.318-321 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	文化と宗教の問題	【予習】 教科書 pp.322-324 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	平和をめぐる問題ー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp.325-327 を読んで平和をめぐる問題についてまとめてくること	4 時間

科目名	宗教学概説	開講年度	2025
担当者	本多 真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、宗教の歴史的な流れを理解しつつ、グローバルな状況の中で宗教がどのように需要されているかについて学びます。		
授業の目的及び概要	宗教文化、宗教対話、宗教慣習に関心を持ちつつ、宗教をめぐる現象を客観的に理解／分析することのできる力を身に着けることを目指します。また宗教が社会とどう関わり、宗教のどのような側面が社会と反発するのかを知ることとおして、身のまわりにある宗教や宗教的な風習との付き合い方に関心を向けることができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宗教がどのような歴史を経て、今日どのような形で現存し、社会とどのように共存しているのか、その概要について理解することができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回、資料を準備します。	ISBN	特になし。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：宗教について考える	・講義概要の説明。 ・あなたがイメージする宗教とはいったい何を指していますか。調べておいてください。 ・世界に宗教を信じる人はどのくらいいるのか、調べておいてください。	4 時間

第2回	対面	宗教のタイプ：一神教、多神教、無神論／ 民族宗教、世界宗教	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ どの宗教が「一神教」「多神教」「無神論」か、またそれらの宗教が「民族宗教」「世界宗教」のいずれに該当するか、調べておきましょう。	4 時間
第3回	対面	ユダヤ教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ ユダヤ教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第4回	対面	キリスト教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ キリスト教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第5回	対面	イスラム教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ イスラム教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第6回	対面	ヒンドゥー教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ ヒンドゥー教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第7回	対面	仏教について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 仏教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第8回	対面	神道について	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 神道について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第9回	対面	日本人と宗教	・ 前回講義の内容を復習してきてください。 ・ 日本人の多くは「無宗教」でありながら、日本には無数の宗教施設があります。この謎に迫ります。 ・ 無数に存在する神社、寺院はどのように維持されているのか、インターネットなどで調べておきましょう。	4 時間
第10回	対面	発表：自由論題①	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第11回	対面	発表：自由論題②	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第12回	対面	発表：自由論題③	・ 宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第13回	対面	宗教と社会課題①	・ 宗教は命をどう捉えるか、生命操作の現場に迫ります。 ・ 人工妊娠中絶、胃ろうなどの医療行為にどの宗教が反対意見なのか、調べておきましょう。	4 時間
第14回	対面	宗教と社会課題②	・ 宗教と政治について考えます。 ・ イスラエルとはどのような国か、調べておきましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義総括	・ 前回講義の内容を復習してきてください。	4 時間

科目名	心理学概説	開講年度	2025
担当者	竹井 夏生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	子どもたちの育ちと学びに携わりたいと考える学生向けの教職科目としての心理学		
授業の目的及び概要	いじめ、不登校、偏差値教育、学校不信、家族のきずなの弱まり、社会不安の高まり—子どもたちを含め、私たちが育ち、学び、そして生きる環境は、内的にも外的にも、大きく揺らいでいるように思います。この科目では、主に教職に関心を持つ学生に向けて、心理学の観点から、私たちがよりよく育ち、学び、生きるための手掛かりを共に考えていくことを目的としています。		
履修条件・留意点	教職に関心を持つ学生に広く開かれています。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・発達（育ち）の観点から、自己および他者理解を深め、教職に携わる上でのヒントを見出すことができる。 ・学習（学び）の観点から、人間を豊かにするための学びのあり方を考え、教職においてそれを実践するためのヒントを見出すことができる。 ・関係性（関わり）の観点から、他者の悩みや集団における困難を受け止め、洞察し、手立てを共に考えることのできる教師としての姿勢を育むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別の質問については授業の前後、またはメールにて受け付ける。各回のコメントシートについては、授業内でできる限り取り上げながら受講生と問題意識を共有できるようにする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジュメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下を代表的な文献として講義の準備をしてくるので、関心のある受講生は直接手に取ってみるとよい。 ① エリクソンの人間学，西平直（著），東京大学出版会，1993 ② いじめのある世界に生きる君たちへ，中井久夫（著），中央公論新社，2016	ISBN	① ISBN:9784130161015 ② ISBN:9784120049217
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	職業選択に自らの未解決の問題が反映されるとするならば、教職に関心を持つ学生は、育つこと、学ぶこと、そしてそれらを通して生きること「くすぶり」を持っているのかもしれない。それはむしろ教職において大切な資産になるはず。自らの内面に目を向けながら、		

それを通して子どもたちの育ちや学び、そして生きることに関わることのできるあり方を一緒に考えていきましょう。気軽に参加ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職科目としての心理学への導入 育ちや学びを支える教師に必要となる心理学について、全体像を示し導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第2回	対面	心の育ちと発達（1） E.H. エリクソンの発達心理学について、特に学齢期の発達を中心に学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第3回	対面	心の育ちと発達（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第4回	対面	心の育ちと発達（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第5回	対面	心の育ちと病（1） 学齢期に見られる精神疾患や障害特性について、心の育ちや関係性といった観点から考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第6回	対面	心の育ちと病（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第7回	対面	学ぶ理由と動機付け（1） 学習について、学びの意欲、主体性、内容、環境、受験勉強といった観点から考え、よりよい学びを支えるあり方について考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第8回	対面	学ぶ理由と動機付け（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第9回	対面	いじめの心理学（1） 「いじめ」についての深い洞察と、子どもを守る倫理観を持てるように、学校場面で	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の	4 時間

		のいじめについて考える。	講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	
第10回	対面	いじめの心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	4 時間
第11回	対面	子どもの心と物語 子どもの育ちを「物語 (narrative)」という観点から学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	4 時間
第12回	オンデマンド	カウンセリングへの導入 カウンセリング心理学を学ぶための導入として、提示する臨床素材をもとにして、自分自身のこれまでの育ち、学び、関わりについて振り返る取り組みを行う (オンデマンド回)。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	4 時間
第13回	対面	カウンセリング心理学 (1) 教師に必要となるカウンセリングについて、その理論と実践を学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	4 時間
第14回	対面	カウンセリング心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみることに。	4 時間
第15回	対面	まとめと展望 これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	社会・地理歴史科教育法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。 ・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。 ・なお、「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」とのすみ分けを意識し、本講義では地理教育分野に軸足を置いて行うものとする。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。ただし、本講義では地理教育分野を中心に学修を進める。 ①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 ②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 ③地理歴史科の授業の実践について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	9784491036410
参考書	①高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），文部科学省，東山書房，2018 年 ②中学校学習指導要領（平成 29 年告示），文部科学省，東山書房，2017 年 ③中学校学習指導要領（平成 29 年）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018 年 ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社，2021 年	ISBN	①9784827815672 ②9784827815795 ③9784491034713 ④9784491047010
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	20
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。 ・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	地理教育の意義と課題① ▷ 日本の地理教育における歩み、「地理総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 本講義のシラバスを熟読し、授業内容について予習を行ってくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第2回	対面	地理教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における地理教育の特徴 ▷ 地理総合と地理探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第3回	対面	日本と諸外国の地理教育 ▷ 地理教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第4回	対面	地理教材の活用法①（地理的スキル①） ▷ 地誌学習の意義と役割 ▷ GIS システムなど ICT を活用した地誌学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第5回	対面	地理教材の活用法②（地理的スキル②） ▷ 学習内容に応じた教材選定のポイント ▷ GIS システムなど ICT を活用した地理学習（主題学習 動態地誌）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第6回	対面	地理教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4 時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	
第7回	対面	統計調査や野外調査の分析と考察(地理的スキル③) ▶ 地理各種統計調査や野外調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(地理総合) ▶ 単元構想と学習内容の位置づけ ▶ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②(地理総合) ▶ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。作成した学習指導案を発表できるように準備してくることを。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第10回	対面	授業実践①(情報機器及び教材の活用を含む) ▶ GIS システムなど ICT を活用した模擬授業の実践(地理総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第11回	対面	授業実践②(情報機器及び教材の活用を含む) ▶ 統計調査を活用した模擬授業の実践(地理探究)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第12回	対面	ハザードマップの作成と防災教育(地理的スキル④) ▶ 重ねるハザードマップの活用例	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第13回	対面	授業実践③(情報機器及び教材の活用を含む) ▶ 日本地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第14回	対面	授業実践④(情報機器及び教材の活用を含む) ▶ 世界地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに	4 時間

			復習を行ってこること。	
第15回	オンデマンド	地理教育における授業の総括（オンデマンド授業） ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 これまでの授業内容について総復習を行っておくこと。 事後 理解が不十分だったところや要点などをノートにまとめておくこと。	4時間

科目名	社会・地理歴史科教育法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。 ・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。 ・なお、「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」とのすみ分けを意識し、本講義では歴史教育分野に軸足を置いて行うものとする。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。ただし、本講義では歴史教育分野を中心に学修を進める。 ①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 ②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 ③地理歴史科の授業の実践について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	9784491036410
参考書	①高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），文部科学省，東山書房，2018 年 ②中学校学習指導要領（平成 29 年告示），文部科学省，東山書房，2017 年 ③中学校学習指導要領（平成 29 年）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018 年 ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社，2021 年	ISBN	①9784827815672 ②9784827815795 ③9784491034713 ④9784491047010
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。 ・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	”歴史教育の意義と課題① ▷ 日本の歴史教育における歩み、「歴史総合」必修化にいたる経緯と背景”	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第2回	対面	歴史教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における歴史教育の特徴 ▷ 歴史総合と世界史探究、日本史探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第3回	対面	日本と諸外国の歴史教育 ▷ 歴史教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解（多様性、マイノリティ、多文化主義など）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第4回	対面	歴史教材の活用法①（歴史的スキル①） ▷ 様々な写真や図を活用した歴史学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第5回	対面	歴史教材の活用法②（歴史的スキル②） ▷ 様々な写真や図を活用した歴史学習（海外）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第6回	対面	歴史教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価基準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。	4 時間

			事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	
第7回	対面	文献および各種調査、客観的データの分析と考察（歴史的スキル③） ▶ 歴史的資料や各種調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①（歴史総合） ▶ 単元構想と学習内容の位置づけ ▶ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②（歴史総合） ▶ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第10回	対面	授業実践①（情報機器及び教材の活用を含む） ▶ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（歴史総合）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第11回	対面	授業実践②（情報機器及び教材の活用を含む） ▶ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第12回	対面	授業実践③（情報機器及び教材の活用を含む） ▶ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第13回	対面	授業実践④（情報機器及び教材の活用を含む） ▶ ビジュアル教材を活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第14回	対面	授業実践⑤（情報機器及び教材の活用を含む） ▶ フィールドワークを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4 時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第15回	オンデマンド	歴史教育における授業の総括（オンデマンド授業） ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 授業で取り上げた基本的事項について一通り復習を行ってこること。 事後 本授業で出されたプリントなどを中心に復習を行っておくこと。	4時間

科目名	社会・公民科教育法Ⅰ	開講年度	2025
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていきたい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第2回	対面	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第3回	対面	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第4回	対面	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第5回	対面	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第6回	対面	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第7回	対面	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第8回	対面	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第9回	対面	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第10回	対面	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第11回	対面	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間
第12回	対面	授業の実践例（公共）① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第13回	対面	授業の実践例（公共）② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第14回	対面	授業の実践例（公共）③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	復習：社会科・公民科の授業づくりのポイント	映像を視聴してワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4時間

科目名	社会・公民科教育法Ⅱ	開講年度	2025
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の授業づくりと授業実践		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所によりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解し、授業デザインとして具体化できること 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について実践的に理解すること 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていきたい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	授業の実践例（公共）④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第2回	対面	授業の実践例（公共）⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第3回	対面	授業の実践例（倫理）① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第4回	対面	授業の実践例（倫理）② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第5回	対面	授業の実践例（倫理）③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第6回	対面	授業の実践例（倫理）④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第7回	対面	授業の実践例（倫理）⑤ 「倫理」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第8回	対面	授業の実践例（政治・経済）① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第9回	対面	授業の実践例（政治・経済）② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第10回	対面	授業の実践例（政治・経済）③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第11回	対面	授業の実践例（政治・経済）④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第12回	対面	授業の実践例（政治・経済）⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第13回	対面	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4 時間
第14回	対面	発展的な学習内容とその指導 探究と PBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	4 時間

科目名	教育基礎論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。 具体的内容は、以下のとおりである。 1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。 2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。 3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。 2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。 3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020) ④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672 ③9784623088065 ④9784623059263
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手に入れるだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。 授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。 定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念 人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第2回	対面	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第3回	対面	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割 教育の概念と学校教育の構成基盤（子ども・教員・家庭）	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第4回	対面	社会・文化と教育 ② 教育の構成基盤とその関係の変化 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第5回	対面	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第6回	対面	現代社会と教育 ② ジェンダーを題材に学校教育を考える ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第7回	対面	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察 古代文明と学習施設の発生から考える 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第8回	対面	教育の歴史 ② 西洋古代の家庭、子どもと学習 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第9回	対面	現代社会と教育 ③ 西洋中世の社会と大学・学問から考える 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第10回	対面	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度（学校の制度化）の出現 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第11回	対面	近代公教育の成立 ② 公教育形成期の社会と家庭と子ども 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第12回	対面	欧米の教育思想家 子どもと家庭的環境への注目 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第13回	対面	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間

第14回	対面	戦後日本の公教育 教育を受ける権利と公教育の法理念 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第15回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題 各自の考える問題についてまとめる	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間

科目名	教育基礎論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。 具体的内容は、以下のとおりである。 1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。 2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。 3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。 2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。 3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020) ②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018) ③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020) ④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672 ③9784623088065 ④9784623059263
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手に入れるだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。 授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。 定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念 人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第2回	対面	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第3回	対面	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割 教育の概念と学校教育の構成基盤（子ども・教員・家庭）	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第4回	対面	社会・文化と教育 ② 教育の構成基盤とその関係の変化 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第5回	対面	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第6回	対面	現代社会と教育 ② ジェンダーを題材に学校教育を考える ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第7回	対面	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察 古代文明と学習施設の発生から考える 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第8回	対面	教育の歴史 ② 西洋古代の家庭、子どもと学習 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第9回	対面	現代社会と教育 ③ 西洋中世の社会と大学・学問から考える 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第10回	対面	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度（学校の制度化）の出現 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第11回	対面	近代公教育の成立 ② 公教育形成期の社会と家庭と子ども 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第12回	対面	欧米の教育思想家 子どもと家庭的環境への注目 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第13回	対面	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間

第14回	対面	戦後日本の公教育 教育を受ける権利と公教育の法理念 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間
第15回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題 各自の考える問題についてまとめる	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4 時間

科目名	教職論	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	「教職」について知り、進路を考える		
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週にコメントをします。 小テストは採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年 ③教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編），昭和堂，2023 年	ISBN	① 9784827815795 ② 9784827815672 ③9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。 自らの行動が教員としてふさわしいかを考えて授業に参加してほしい。したがって授業への出席は基本である。
--------------	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職の意義と役割及び進路としての教職	事後：履修要項をよく読んで、本学の教員養成の目標、希望する教員免許状に必要な科目、単位数について確認する。	2.5時間
第2回	対面	教員免許制度について	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第3回	対面	教員の職務	事前：教職とほかの専門職の共通点と相違点について考える。 事後：ノートを整理し、まとめる。	4時間
第4回	対面	教職像・教師像の変遷（1）戦前まで	事前：江戸時代から戦前までの歴史の復習をしておく。 事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第5回	対面	教職像・教師像の変遷（2）戦後から現在	事後：戦後の教職観に影響を与えた社会の変化について整理する。 事後：ノートを整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第6回	対面	教職に求められる資質能力	事後：90年代後半以降に求められた教員の資質・能力に影響を与えた社会背景について調べてまとめる。	4.5時間
第7回	対面	教職に求められる今日的役割：レポートの作成	教職に求められる今日的役割について整理し、レポートを作成する。	4.5時間
第8回	対面	教員の研修	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第9回	対面	教職に求められる職務上、身分上の義務	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第10回	オンデマンド	学校が抱える課題と教員の働き方改革	事後：文部科学省ウェブサイトの「学校における働き方改革～取組事例集～（令和2年2月）」を読んで、考察する。	4時間
第11回	対面	学校現場における教員の職務と役割	事後：学校現場における教員の職務、働き方について感想をまとめる。	4時間
第12回	対面	学校組織と校務分掌	事前：教員にはどのような仕事があるか書き出す。 事後：教員の役割としてどのようなものがあるか整理してまとめる。教職員間での連携の必要性について説明できるようにする。	4時間
第13回	対面	教員採用試験と求められる教員像	事後：関心のある自治体の教員採用試験について調べてまとめる。	4時間
第14回	対面	教師と専門家が連携したチーム的対応	事後：チーム学校における教員の役割、専門家との協働について考えをまとめる。 事前：学校、子どもが抱える問題としてどのようなものがあるか調べる。	4.5時間
第15回	対面	学び続ける教員と教員育成指標	事後：「大阪府教員等育成指標」（OSAKA教職スタンダード）をもとに、現在の自分自身を評価する。	4時間

科目名	教職論	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	「教職」について知り、進路を考える		
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週にコメントをします。 小テストは採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年 ③教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編），昭和堂，2023 年	ISBN	① 9784827815795 ② 9784827815672 ③9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。 自らの行動が教員としてふさわしいかを考えて授業に参加してほしい。したがって授業への出席は基本である。
--------------	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職の意義と役割及び進路としての教職	事後：履修要項をよく読んで、本学の教員養成の目標、希望する教員免許状に必要な科目、単位数について確認する。	2.5時間
第2回	対面	教員免許制度について	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第3回	対面	教員の職務	事前：教職とほかの専門職の共通点と相違点について考える。 事後：ノートを整理し、まとめる。	4時間
第4回	対面	教職像・教師像の変遷（1）戦前まで	事前：江戸時代から戦前までの歴史の復習をしておく。 事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第5回	対面	教職像・教師像の変遷（2）戦後から現在	事後：戦後の教職観に影響を与えた社会の変化について整理する。 事後：ノートを整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第6回	対面	教職に求められる資質能力	事後：90年代後半以降に求められた教員の資質・能力に影響を与えた社会背景について調べてまとめる。	4.5時間
第7回	対面	教職に求められる今日的役割：レポートの作成	教職に求められる今日的役割について整理し、レポートを作成する。	4.5時間
第8回	対面	教員の研修	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第9回	対面	教職に求められる職務上、身分上の義務	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第10回	オンデマンド	学校が抱える課題と教員の働き方改革	事後：文部科学省ウェブサイトの「学校における働き方改革～取組事例集～（令和2年2月）」を読んで、考察する。	4時間
第11回	対面	学校現場における教員の職務と役割	事後：学校現場における教員の職務、働き方について感想をまとめる。	4時間
第12回	対面	学校組織と校務分掌	事前：教員にはどのような仕事があるか書き出す。 事後：教員の役割としてどのようなものがあるか整理してまとめる。教職員間での連携の必要性について説明できるようにする。	4時間
第13回	対面	教員採用試験と求められる教員像	事後：関心のある自治体の教員採用試験について調べてまとめる。	4時間
第14回	対面	教師と専門家が連携したチーム的対応	事後：チーム学校における教員の役割、専門家との協働について考えをまとめる。 事前：学校、子どもが抱える問題としてどのようなものがあるか調べる。	4.5時間
第15回	対面	学び続ける教員と教員育成指標	事後：「大阪府教員等育成指標」（OSAKA教職スタンダード）をもとに、現在の自分自身を評価する。	4時間

科目名	教育行政学	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	戦後日本の教育行政－教育の諸制度とその運営－		
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。さらにより視野を広げ、今日の学校、子ども達やその家庭がおかれている社会的な状況を理解し、子どものウェルビーイングを改善するのに必要な取り組み＝学校や地域で子どもとその家庭を総合的に切れ目なく支援する学校や地域の在り方、そのための教育、福祉、経済政策・制度について学び、考え、展望する。その際、学校安全についても理解を深める。そしてそこにおける自らの教師としての役割についても自覚する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2）学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3）学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全（危機管理を含む）の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教育法規 スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編），昭和堂，2023 年	ISBN	9784812222256
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	85	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業への出席を原則とします。 授業内でのディスカッションには積極的に参加してください。 授業では、講義内容をまとめながらノートを取ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教育行政とは	事前：本授業の到達目標に基づいて、自分なりの目標を設定する。 事後：自分がこれまでどのような教育を受けてきたのかをまとめる。	4時間
第2回	対面	公教育と我が国の学校体系	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 公教育の意義や我が国の学校体系の特徴について説明できるようにする。	4時間
第3回	対面	日本国憲法と教育	事前：教育に関する法規としてどのようなものがあるか調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第4回	対面	日本国憲法と教育基本法	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。憲法26条を暗唱し、その意味について説明できるようにする。	4時間
第5回	対面	教育の機会均等と義務教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第6回	対面	教育を受ける権利と就学義務	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第7回	対面	学校教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第8回	対面	教育機会の確保のための多様な学び	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第9回	対面	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 文部科学省のホームページを閲覧し、どのような役割を持っているのか確認する。 学校教育における文部科学省の役割についてまとめる。	4時間
第10回	対面	地方教育行政の制度理念とシステム	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。関心のある特定の自治体（都道府県/市町村）の総合教育会議・教育大綱について調べてまとめる。	4時間
第11回	対面	学校・家庭・地域の連携	事前：学校・家庭・地域の連携が求められた社会情勢について調べる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第12回	対面	チーム学校からチーム地域へ	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 関心のある自治体・学校において、「地域とともにある学校づくり」のためにどのような取り組みが行われているのか調べる。	4時間
第13回	対面	家庭教育とその支援の必要性	事前：子どもの貧困の実態を調べてくる。 事後：子どもの貧困の対策のため、自分たちにどのようなことができるか考える。	4時間
第14回	対面	学校安全の実際と課題	事前：学校保健安全法に目を通してくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 学校の危機管理に関するニュース（新聞記事等）を探し、そこで取られた対応と問題点についてまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事後：ノート、資料を見直し、これまでの学びを振り返る。	4時間

科目名	教育行政学	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	戦後日本の教育行政－教育の諸制度とその運営－		
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。さらにより視野を広げ、今日の学校、子ども達やその家庭がおかれている社会的な状況を理解し、子どものウェルビーイングを改善するのに必要な取り組み＝学校や地域で子どもとその家庭を総合的に切れ目なく支援する学校や地域の在り方、そのための教育、福祉、経済政策・制度について学び、考え、展望する。その際、学校安全についても理解を深める。そしてそこにおける自らの教師としての役割についても自覚する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2）学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3）学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全（危機管理を含む）の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教育法規 スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編），昭和堂，2023 年	ISBN	9784812222256
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	85	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業への出席を原則とします。 授業内でのディスカッションには積極的に参加してください。 授業では、講義内容をまとめながらノートを取ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教育行政とは	事前：本授業の到達目標に基づいて、自分なりの目標を設定する。 事後：自分がこれまでどのような教育を受けてきたのかをまとめる。	4時間
第2回	対面	公教育と我が国の学校体系	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 公教育の意義や我が国の学校体系の特徴について説明できるようにする。	4時間
第3回	対面	日本国憲法と教育	事前：教育に関する法規としてどのようなものがあるか調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第4回	対面	日本国憲法と教育基本法	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。憲法26条を暗唱し、その意味について説明できるようにする。	4時間
第5回	対面	教育の機会均等と義務教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第6回	対面	教育を受ける権利と就学義務	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第7回	対面	学校教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第8回	対面	教育機会の確保のための多様な学び	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第9回	対面	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 文部科学省のホームページを閲覧し、どのような役割を持っているのか確認する。 学校教育における文部科学省の役割についてまとめる。	4時間
第10回	対面	地方教育行政の制度理念とシステム	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。関心のある特定の自治体（都道府県/市町村）の総合教育会議・教育大綱について調べてまとめる。	4時間
第11回	対面	学校・家庭・地域の連携	事前：学校・家庭・地域の連携が求められた社会情勢について調べる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第12回	対面	チーム学校からチーム地域へ	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 関心のある自治体・学校において、「地域とともにある学校づくり」のためにどのような取り組みが行われているのか調べる。	4時間
第13回	対面	家庭教育とその支援の必要性	事前：子どもの貧困の実態を調べてくる。 事後：子どもの貧困の対策のため、自分たちにどのようなことができるか考える。	4時間
第14回	対面	学校安全の実際と課題	事前：学校保健安全法に目を通してくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 学校の危機管理に関するニュース（新聞記事等）を探し、そこで取られた対応と問題点についてまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事後：ノート、資料を見直し、これまでの学びを振り返る。	4時間

科目名	学校教育心理学	開講年度	2025
担当者	上松 幸一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成		
授業の目的及び概要	教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱います。 1)記憶や学習など認知に関わる心理学的知識。 2)教授の方法やプロセス、および学習評価といった学習に関わる心理過程。 3)運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性。 4)生徒の特性についての理解を深めるための、パーソナリティ心理学的内容。 5)学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりに関する社会心理学的内容。 6)生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 様々な学習の形態や概念およびその過程を理解し、学習の過程の特性に応じた教育指導のための知識や考え方を理解する。 2) 主体的学習を支える動機付け、集団づくり、学習評価のあり方およびその発達の特徴と関連を知る。 3) 生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動および環境への適応を援助する理論について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭専修免許状、臨床心理士、公認心理師の資格を有し、児童相談所において、心理判定員及び児童福祉司の経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	講義毎に事前に LearningPortal にアップします。必ずプリントアウトし、講義に持参してください。	ISBN	なし
参考書	田爪宏二編著、よくわかる教職エクササイズ 教育心理学、ミネルヴァ書房、2018 年 文部科学省、生徒指導提要（改訂版）、2022 年 文部科学省、小学校学習指導要領、2017 年 文部科学省、中学校学習指導要領 2018 年 その他、必要に応じて講義資料にて紹介します。	ISBN	ISBN978-4-623-08177-6/C3337
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
その他の内容		定期試験はレポート試験です。事前に課題情報が提供されますので、授業開催期間内に提出してく	

		ださい。
この科目の受講にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。 分からないことがあった時は、必ず、質問してください。 小テスト、パワーポイントを利用したプレゼンテーションの実施など検討しています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	＜オリエンテーション、および教育心理学の歴史①＞ シラバス説明・教育目標の伝達、および教育心理学の歴史について解説	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4 時間
第2回	対面	＜教育心理学の歴史②、および心身の発達・基礎的な理論＞ 教育心理学の歴史について解説を行い、また発達理論の中心的なものを解説	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間
第3回	対面	＜乳幼児期の発達、および児童期・青年期の発達＞ 乳幼児期、および児童期・青年期に絞って人の発達を解説。現代社会における課題などについても触れていく	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間
第4回	対面	＜成人期・老年期の発達、および学習のメカニズムについて＞ 成人期・老年期に絞って人の発達を解説。また学習のメカニズムにおける学習と知識獲得に関する解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間
第5回	対面	＜学習のメカニズム 認知と記憶、および動機づけと学習＞ 学習のメカニズムについて解説。特に認知・記憶、そして動機づけと学習の関係性について説明。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間
第6回	対面	＜学習メカニズムの応用と子供を取り巻く社会と環境＞ これまでの学習理論を整理するとともに、理論が医療や福祉の心理臨床の現場でどのように使われているのかを紹介 また子どもたちがどのような社会環境の中で育ち、教育がどのような役割を担っているのかを考える。 プレゼンテーションのための準備・議題に関する意見などをグループでまとめ、整理をする準備についての説明	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間
第7回	対面	＜教育心理学と教育実践①：認知発達・学級集団と学習支援＞ クラス集団の中における課題を抱えた子ども発達検査の架空事例を用い、その結果と学習支援について考え、履修者で議論を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第8回	対面	＜教育心理学と教育実践② 個性や個人差を考えた学習支援＞ 知能に関する解説を行う。その上で、個人差とは何かについて履修生とともに考えると、個人差や個性の違いに配慮した学習支援について、具体的な事例をもとに解説を行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第9回	対面	＜教育心理学と教育実践③ 教育評価＞ 教育の評価方法について解説を行うと	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4 時間

		もに、子どもの性格や情緒傾向の評価と教育への運用を考える	講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	
第10回	対面	＜特別な支援と教育心理学①：障害の基本的理解と福祉サービス＞ 障害とは何かを概観し、学生と一緒に考える時間をもつ。また障害児の支援に関するサービスについて解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第11回	対面	＜特別な支援と教育心理学②：困難さを抱える子どもへの教育的支援（ADHD と ASD）＞ 特別支援教育の支援対象である「ADHD」と「ASD」に関して解説を行い、その支援についてディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第12回	対面	＜特別な支援と教育心理学③ 困難さを抱える子どもへの教育的支援（精神障害と情緒的課題）＞ 特別支援教育の支援対象である「精神疾患」に関して解説を行う。また愛着障害のような情緒的問題について現場の実際を解説。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第13回	対面	＜学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学①（学級崩壊・モンスターペアレント。非行など）＞ 学校現場で問題となっている学級崩壊、モンスターペアレント、引きこもり、非行行動などについて解説、および履修生とディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4 時間
第14回	対面	＜学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学②（児童虐待と他機関連携）＞ 学校現場で問題となっている児童虐待、および他機関連携について解説、および履修生とディスカッションを行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	＜生徒の心に関わる専門的技術：カウンセリングと心理療法について学ぶ（心理療法の技術）＞ 現場で実際に使われている心理療法についての解説を行うとともに、カウンセリングの基本的な考え方を伝達する。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4 時間

科目名	教育課程論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育課程の理論及びカリキュラム・マネジメントの機能について学び、理解を深める		
授業の目的及び概要	・本授業では、教育課程が果たす役割や機能、意義について概説し、学習指導要領を踏まえて教育課程の基本的な構造について理解を図る。また、学校における教育課程編成の方法やカリキュラム・マネジメント、学習評価について理解を深めることを目的とする。 ・具体的には、教育課程に関する基礎知識や編成の方法などについて、他者との意見交換やプレゼンテーションなど、様々な方法を活用して学ぶ授業内容となっている。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。 ①学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原則と、実際的な教育課程編成方法について理解する。 ③教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、プレゼン資料など)について、教員がコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論, 古川 治・矢野裕俊 編, 北大路書房, 2019 年 ※このテキストは、授業内及びレポート作成の際に使用するので、早めに購入すること。	ISBN	9784762830624
参考書	①中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編, 文部科学省, 東山書房, 2020 年 ②高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2019 年	ISBN	①9784827815801 ②9784491036397
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	・本授業では、PBL や他者との意見交換、プレゼンテーションなどを通じて、教職を目指す学生が教育課程に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。		

あたって	・授業における疑問や考察を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。
------	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・教育課程の概念 ▷ 教育課程とは何か(オリエンテーション、授業の進め方や評価など)について学ぶ。	事前学修：シラバスの内容をよく読んでくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートやデータに整理しておくこと。	4 時間
第2回	オンデマンド	・教育課程の構成要素とその意義 ▷ 教育課程の基準や学習指導要領に関する基本的事項を学び、教育課程における今日的意義について理解を深める。	事前学修：第1回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第3回	オンデマンド	・学校経営とカリキュラムマネジメント ▷ 教育課程を編成するのは誰か、編成の方法・手順や教育目標などについて、学校組織と関連づけて学ぶ。	事前学修：第2回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第4回	オンデマンド	・教師によるカリキュラムづくり ▷ 教育課程編成の意義とそれに関わる諸課題について基本的事項を学び、理解を深める。	事前学修：第3回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第5回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(1)教育課程調べ ▷ 学校教育における教育課程の特徴と仕組みを学ぶ	事前学修：第4回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第6回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(2)教育課程の検討 ▷ 教育課程の違いを比較して各学校・地域の特徴やカリキュラムマネジメントについて理解する。	事前学修：第5回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第7回	オンデマンド	・特別支援教育と幼児教育における教育課程 ▷ 国内外における特別支援教育と幼児教育の教育課程の特色を学ぶ。	事前学修：第6回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	・カリキュラム史と思想、現代の動向 ▷ 学校教育における教育課程の変遷やその基盤となる思想について、現代の動向とともに学ぶ。	事前学修：第7回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	・日本の学習指導要領の変遷 ▷ 学習指導要領と教育課程の編成について、基本的な考え方やそれぞれの特色に	事前学修：第8回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。	4 時間

		ついて学ぶ。	事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第10回	オンデマンド	・隠れたカリキュラム ▷ カリキュラムの特徴の一つとして「隠れたカリキュラム」という概念から理解を深める。	事前学修：第9回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	・子どもたちの多様性と学校での学びの経験 ▷ 学校教育における諸活動について具体的な子どもたちの姿と彼らが経験する学びの意味から理解を深める。	事前学修：第10回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	・教師と子どもたちによってつくられる単元学習 ▷ 教育課程における単元学習について教師と児童生徒の具体的な実践から理解を深める。	事前学修：第11回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(1)学校目標・育てたい生徒像・学習のねらいの検討 ▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。	事前学修：第12回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とプレゼンテーションで指摘されたことを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(2)教科・教科外における年間計画の検討 ▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。また他者の作成した年間計画との比較を通して、その多様性を理解する。	事前学修：第13回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	・授業総括（オンデマンド授業） ▷ 教育課程の特質や内容について既習事項の整理、総括を行う。	事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。 事後学修：これまで授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間

科目名	特別支援教育概論	開講年度	2025
担当者	三益 亜美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。		
授業の目的及び概要	様々な障害や、特別の教育的ニーズのある、特別な支援を要する子どもの特性や発達を理解し、一人一人の教育的ニーズを把握した指導や支援の在り方を学ぶ。講義を通して、特別支援教育に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や現状の課題を踏まえ、様々な障害や、特別の教育的ニーズのある子どもへの理解をもとに、特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解し、自分のことばで正しく説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業支援システム（Learning Portal）に講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	テキスト：テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。 ISBN なし。
参考書	はじめて学ぶ教職 18 特別支援教育－共生社会の実現に向けて－、小林秀之・米田宏樹・安藤隆男 編著，吉田武男 監修，ミネルヴァ書房，2018年	ISBN	9784623081523
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	90	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本授業科目は、1/2 学期の授業回数（計 8 回の講義）で構成されています。 現在、特別支援教育に関する知識は、どの教員にも求められています。 覚えるべき基礎事項を覚え、その知識を使って柔軟に子どもへの支援を考える力を養ってほしいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデ	授業概要を説明した後に、「障害とは何	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んで	4 時間

	マンド	か？」と「障害児教育の歴史」について概説します。	おいください。 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	
第2回	オンデマンド	「特別支援教育の理念（指導計画、支援計画、連携などを含む）」について解説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	「教育課程における特別支援教育」を説明した後に、「視覚障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	「聴覚障害」と「知的障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「言語障害」それぞれに関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	「情緒障害」と「発達障害（主に ASD）」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	「情緒障害」と「発達障害（主に ADHD と DCD）」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	「発達障害（主に LD）」に関する基礎知識と支援方法を概説したのちに、「母国語や貧困の問題等の特別な教育的ニーズ」を説明し、通常の学校における特別支援教育に関するまとめを行います。 通常の学校における特別支援教育：まとめ	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	特別支援教育概論	開講年度	2025
担当者	三益 亜美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html/	単位数	1 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。		
授業の目的及び概要	様々な障害や、特別の教育的ニーズのある、特別な支援を要する子どもの特性や発達を理解し、一人一人の教育的ニーズを把握した指導や支援の在り方を学ぶ。講義を通して、特別支援教育に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や現状の課題を踏まえ、様々な障害や、特別の教育的ニーズのある子どもへの理解をもとに、特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解し、自分のことばで正しく説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業支援システム（Learning Portal）に講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	テキスト：テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。 ISBN なし。
参考書	はじめて学ぶ教職 18 特別支援教育－共生社会の実現に向けて－, 小林秀之・米田宏樹・安藤隆男 編著, 吉田武男 監修, ミネルヴァ書房, 2018 年	ISBN	9784623081523
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	90	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本授業科目は、1/2 学期の授業回数（計 8 回の講義）で構成されています。 現在、特別支援教育に関する知識は、どの教員にも求められています。 覚えるべき基礎事項を覚え、その知識を使って柔軟に子どもへの支援を考える力を養ってほしいと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデ	授業概要を説明した後に、「障害とは何	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んで	4 時間

	マンド	か？」と「障害児教育の歴史」について概説します。	おいください。 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	
第2回	オンデマンド	「特別支援教育の理念（指導計画、支援計画、連携などを含む）」について解説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	「教育課程における特別支援教育」を説明した後に、「視覚障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	「聴覚障害」と「知的障害」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「言語障害」それぞれに関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	「情緒障害」と「発達障害（主に ASD）」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	「情緒障害」と「発達障害（主に ADHD と DCD）」に関する基礎知識と支援方法を概説します。	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	「発達障害（主に LD）」に関する基礎知識と支援方法を概説したのちに、「母国語や貧困の問題等の特別な教育的ニーズ」を説明し、通常の学校における特別支援教育に関するまとめを行います。 通常の学校における特別支援教育：まとめ	【予習】特になし 【復習】講配布資料を読み直し講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	教育課程論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育課程の理論及びカリキュラム・マネジメントの機能について学び、理解を深める		
授業の目的及び概要	・本授業では、教育課程が果たす役割や機能、意義について概説し、学習指導要領を踏まえて教育課程の基本的な構造について理解を図る。また、学校における教育課程編成の方法やカリキュラム・マネジメント、学習評価について理解を深めることを目的とする。 ・具体的には、教育課程に関する基礎知識や編成の方法などについて、他者との意見交換やプレゼンテーションなど、様々な方法を活用して学ぶ授業内容となっている。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。 ①学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原則と、実際的な教育課程編成方法について理解する。 ③教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、プレゼン資料など)について、教員がコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論，古川 治・矢野裕俊 編，北大路書房，2019 年 ※このテキストは、授業内及びレポート作成の際に使用するので、早めに購入すること。	ISBN	9784762830624
参考書	①中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編，文部科学省，東山書房，2020 年 ②高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	①9784827815801 ②9784491036397
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	・本授業では、PBL や他者との意見交換、プレゼンテーションなどを通じて、教職を目指す学生が教育課程に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。		

あたって	・授業における疑問や考察を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。
------	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・教育課程の概念 ▷ 教育課程とは何か(オリエンテーション、授業の進め方や評価など)について学ぶ。	事前学修：シラバスの内容をよく読んでくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートやデータに整理しておくこと。	4 時間
第2回	オンデマンド	・教育課程の構成要素とその意義 ▷ 教育課程の基準や学習指導要領に関する基本的事項を学び、教育課程における今日的意義について理解を深める。	事前学修：第1回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第3回	オンデマンド	・学校経営とカリキュラムマネジメント ▷ 教育課程を編成するのは誰か、編成の方法・手順や教育目標などについて、学校組織と関連づけて学ぶ。	事前学修：第2回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第4回	オンデマンド	・教師によるカリキュラムづくり ▷ 教育課程編成の意義とそれに関わる諸課題について基本的事項を学び、理解を深める。	事前学修：第3回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第5回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(1)教育課程調べ ▷ 学校教育における教育課程の特徴と仕組みを学ぶ	事前学修：第4回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第6回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(2)教育課程の検討 ▷ 教育課程の違いを比較して各学校・地域の特徴やカリキュラムマネジメントについて理解する。	事前学修：第5回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第7回	オンデマンド	・特別支援教育と幼児教育における教育課程 ▷ 国内外における特別支援教育と幼児教育の教育課程の特色を学ぶ。	事前学修：第6回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	・カリキュラム史と思想、現代の動向 ▷ 学校教育における教育課程の変遷やその基盤となる思想について、現代の動向とともに学ぶ。	事前学修：第7回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	・日本の学習指導要領の変遷 ▷ 学習指導要領と教育課程の編成について、基本的な考え方やそれぞれの特色に	事前学修：第8回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。	4 時間

		ついて学ぶ。	事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第10回	オンデマンド	・隠れたカリキュラム ▷ カリキュラムの特徴の一つとして「隠れたカリキュラム」という概念から理解を深める。	事前学修：第9回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	・子どもたちの多様性と学校での学びの経験 ▷ 学校教育における諸活動について具体的な子どもたちの姿と彼らが経験する学びの意味から理解を深める。	事前学修：第10回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	・教師と子どもたちによってつくられる単元学習 ▷ 教育課程における単元学習について教師と児童生徒の具体的な実践から理解を深める。	事前学修：第11回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(1)学校目標・育てたい生徒像・学習のねらいの検討 ▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。	事前学修：第12回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とプレゼンテーションで指摘されたことを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(2)教科・教科外における年間計画の検討 ▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。また他者の作成した年間計画との比較を通して、その多様性を理解する。	事前学修：第13回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	・授業総括（オンデマンド授業） ▷ 教育課程の特質や内容について既習事項の整理、総括を行う。	事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。 事後学修：これまで授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間

科目名	道徳理論と指導法		開講年度	2025
担当者	松元 利男		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	—		授業方法	講義
科目区分	教職課程科目			
テーマ	道徳教育及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法の基礎を学び、授業実践力を養う。			
授業の目的及び概要	・道徳の意義や原理をベースに道徳教育や道徳科の目標、内容を理解するとともに、現代社会における道徳教育の課題を考察しながら基本的知識、指導スキルを身につけることを目的とする。 ・道徳科における様々な教材、指導法、評価法などを学び、学校現場で実践的な指導ができるようグループワークや模擬授業などを積極的に取り入れていた授業内容になっている。			
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この科目においては、以下の 4 点を到達目標とする。 ①道徳教育における変遷や現代的な課題を踏まえ、道徳科における目標や内容を理解する。 ②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し、学習指導計画、指導案の作成ができる。 ③生徒の発達段階や個別の学習状況を踏まえながら、学習評価を行うことができる。 ④模擬授業の実施とその振り返りを通して、教材研究、授業改善の視点を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	1. 毎時の授業内で提出する振り返り(または感想)シートに対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭免許を有しており、公立小学校にて 30 年以上勤務してきた。現在は学校長に就任しており、小学校道徳の教科書の編集及び教師用指導書の執筆も行っている。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。			
テキスト	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳, 文部科学省, 教育出版, 2017 年	ISBN	9784316300849	
参考書	「道徳科」評価の考え方・進め方, 永田繁雄編著, 教育開発研究所, 2017 年	ISBN	9784865607215	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		20	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・本授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、道徳教育や道徳科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。また、ここでは多面的・多角的な考えや意見が発言できる安心・安全な場(教室の雰囲気)づくりを目指すことを重視する。			

	・授業で出された課題については、次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。
--	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・道徳の意義や原理 ▷ 道徳教育における基本的事項の確認（オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など）	事前学修：本講義で指定されているテキストの p. 13 4～143（学習指導要領「特別の教科 道徳」中学校、小学校）を読んでおくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第2回	対面	・現代の子どもの課題と道徳教育 ▷ モラルが低下している社会全体から考える。	事前学修：第 1 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第3回	対面	・我が国の道徳教育の歴史 ▷ 戦前、戦中の教育の反省と戦後の教育改革「道徳の時間」の特設と「特別の教科 道徳」までの変遷	事前学修：第 2 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第4回	対面	・道徳性の構造と道徳教育 ▷ 外的道徳性と内的道徳性について	事前学修：第 3 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第5回	対面	・道徳教育及び道徳科の目標と学習内容についての理解 ▷ 学習指導要領の内容についての学習	事前学修：第 4 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第6回	対面	・道徳科における指導方法の理解 ▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習	事前学修：第 5 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第7回	対面	・道徳科における様々な教材についての理解 ▷ 教材の活用や作成についての留意点	事前学修：第 6 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第8回	対面	・授業実践① ▷ 読み物資料の活用とロールプレイング	事前学修：第 7 回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第9回	対面	・道徳授業の組み立てと学習指導案の作	事前学修：第 8 回の授業で取り上げた内容について	4 時間

		成① ▷ 指導案の基本的な構成と指導過程の理解	復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第10回	対面	・道徳授業の組み立てと学習指導案の作成② ▷ 指導案作成の留意点と道徳科の特性を踏まえた学習評価についての理解	事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第11回	対面	道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた指導の在り方 ▷ PDCAを踏まえた指導計画についての学習	事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第12回	対面	・授業実践② ▷ 学習指導案及び教材を使った模擬授業の実施 ▷ 自作教材の作成について	事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、模擬授業ができるように準備してくること。 事後学修：模擬授業で指摘された事項について、ノートの整理、データ保存などを適宜行いながら復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	・授業実践③ ▷ 自作教材を用いた道徳授業の実施	事前学修：第12回の授業で取り上げた内容をもとに、自作教材を作成してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容を確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第14回	対面	・道徳教育の総括 ▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。道徳教育に関わる専門用語・基礎知識に関する内容について理解度(確認)テストを行う。	事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	・道徳教育における重要事項の確認(オンデマンド授業) ▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。	事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間

科目名	道徳理論と指導法		開講年度	2025
担当者	松元 利男		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	—		授業方法	講義
科目区分	教職課程科目			
テーマ	道徳教育及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法の基礎を学び、授業実践力を養う。			
授業の目的及び概要	・道徳の意義や原理をベースに道徳教育や道徳科の目標、内容を理解するとともに、現代社会における道徳教育の課題を考察しながら基本的知識、指導スキルを身につけることを目的とする。 ・道徳科における様々な教材、指導法、評価法などを学び、学校現場で実践的な指導ができるようグループワークや模擬授業などを積極的に取り入れていた授業内容になっている。			
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この科目においては、以下の 4 点を到達目標とする。 ①道徳教育における変遷や現代的な課題を踏まえ、道徳科における目標や内容を理解する。 ②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し、学習指導計画、指導案の作成ができる。 ③生徒の発達段階や個別の学習状況を踏まえながら、学習評価を行うことができる。 ④模擬授業の実施とその振り返りを通して、教材研究、授業改善の視点を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	1. 毎時の授業内で提出する振り返り(または感想)シートに対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭免許を有しており、公立小学校にて 30 年以上勤務してきた。現在は学校長に就任しており、小学校道徳の教科書の編集及び教師用指導書の執筆も行っている。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。			
テキスト	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳, 文部科学省, 教育出版, 2017 年	ISBN	9784316300849	
参考書	「道徳科」評価の考え方・進め方, 永田繁雄編著, 教育開発研究所, 2017 年	ISBN	9784865607215	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		20	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・本授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、道徳教育や道徳科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。また、ここでは多面的・多角的な考えや意見が発言できる安心・安全な場(教室の雰囲気)づくりを目指すことを重視する。			

	・授業で出された課題については、次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。
--	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・道徳の意義や原理 ▷ 道徳教育における基本的事項の確認（オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など）	事前学修：本講義で指定されているテキストの p. 13 4～143（学習指導要領「特別の教科 道徳」中学校、小学校）を読んでおくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第2回	対面	・現代の子どもの課題と道徳教育 ▷ モラルが低下している社会全体から考える。	事前学修：第1回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第3回	対面	・我が国の道徳教育の歴史 ▷ 戦前、戦中の教育の反省と戦後の教育改革「道徳の時間」の特設と「特別の教科 道徳」までの変遷	事前学修：第2回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第4回	対面	・道徳性の構造と道徳教育 ▷ 外的道徳性と内的道徳性について	事前学修：第3回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第5回	対面	・道徳教育及び道徳科の目標と学習内容についての理解 ▷ 学習指導要領の内容についての学習	事前学修：第4回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第6回	対面	・道徳科における指導方法の理解 ▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習	事前学修：第5回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第7回	対面	・道徳科における様々な教材についての理解 ▷ 教材の活用や作成についての留意点	事前学修：第6回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第8回	対面	・授業実践① ▷ 読み物資料の活用とロールプレイング	事前学修：第7回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第9回	対面	・道徳授業の組み立てと学習指導案の作	事前学修：第8回の授業で取り上げた内容について	4 時間

		成① ▷ 指導案の基本的な構成と指導過程の理解	復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第10回	対面	・道徳授業の組み立てと学習指導案の作成② ▷ 指導案作成の留意点と道徳科の特性を踏まえた学習評価についての理解	事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第11回	対面	道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた指導の在り方 ▷ PDCAを踏まえた指導計画についての学習	事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第12回	対面	・授業実践② ▷ 学習指導案及び教材を使った模擬授業の実施 ▷ 自作教材の作成について	事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、模擬授業ができるように準備してくること。 事後学修：模擬授業で指摘された事項について、ノートの整理、データ保存などを適宜行いながら復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	・授業実践③ ▷ 自作教材を用いた道徳授業の実施	事前学修：第12回の授業で取り上げた内容をもとに、自作教材を作成してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容を確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第14回	対面	・道徳教育の総括 ▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。道徳教育に関わる専門用語・基礎知識に関する内容について理解度(確認)テストを行う。	事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	・道徳教育における重要事項の確認(オンデマンド授業) ▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。	事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間

科目名	総合的な学習の時間の指導法	開講年度	2025
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	総合的な学習(探究)の時間の教育的意義を理解した上で、指導に必要な基礎的实践力を身につける。		
授業の目的及び概要	・本授業では、総合的な学習(探究)の時間の意義、各学校において目標及び内容を定める際や指導計画を作成する際の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につけることを主な目的とする。 ・具体的には、総合的な学習(探究)の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を踏まえ、授業計画の立案、模擬授業を行うことによって授業実践力を身につける内容になっている。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の4点を到達目標とする。 ①学習指導要領における総合的な学習(探究)の時間の目標、並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 ②各教科との関連性を図りながら、総合的な学習(探究)の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 ③主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習(探究)の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解し、授業を行うことができる。 ④総合的な学習(探究)の時間における生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業や体験活動では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編, 文部科学省, 東山書房, 2018年 ②高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編, 文部科学省, 学校図書, 2019年 ※自分の希望校種(中学校/高等学校)に応じてどちらかのテキストを揃える。教育実習などでも必要になるため授業開始時までに購入しておくこと。	ISBN	①9784827815610 ②9784762505362
参考書	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社, 2020年	ISBN	9784491041421
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表(口頭・実技)	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・近年、総合的な学習の時間(中学校)や総合的な探究の時間(高等学校)を中核として、探究学習や問題(課題)解決型学習の重要性が急激に高まっている。本授業では、こうした社会や学校教育のニーズに合わせ、教員として総合的な学習(探究)の時間の授業及びそれに関連する学習活動での指導ができるよう、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。 ・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・総合的な学習(探究)の時間を学ぶにあたって（授業オリエンテーション） ▷ 総合的な学習(探究)の時間とは何かについて概要を説明し、授業の進め方や評価についての説明を行う。	事前学修：シラバスの内容をよく読んでくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第2回	対面	・総合的な学習(探究)の時間の意義及び役割についての理解① ▷ 教科横断的な資質・能力の育成について学ぶ。 ▷ 総合的な学習の時間(中学)と総合的な探究の時間(高校)に関する特質について、基本的な違いや共通点を整理する。	事前学修：第1回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第3回	対面	・総合的な学習(探究)の時間の意義及び役割についての理解② ▷ 探究学習における基本的な学習構造についての説明を聞き、マイプロジェクトの作成を行う。	事前学修：第2回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第4回	対面	・総合的な学習(探究)の時間の目標及び主な内容についての理解 ▷ 総合的な学習(探究)の時間を通じて、それぞれ何を学び、何を身につけることが目指されているのかについて理解する。	事前学修：第3回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第5回	対面	・総合的な学習(探究)の時間における年間指導計画の作成と実践事例① ▷ 年間指導計画に関わる基本的事項及び作成方法について学び、実践事例と照らし合わせながら理解を深める。	事前学修：第4回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第6回	対面	・総合的な学習(探究)の時間における年間指導計画の作成と実践事例② ▷ マイプロジェクトを年間指導計画に位置づけ、どのような指導を継続的に行う必要があるのかについて学ぶ。	事前学修：第5回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4 時間
第7回	対面	・授業実践① ▷ 学習内容の中間総括および授業実践	事前学修：総合的な学習(探究)の時間の特質や内容などを、配布資料や指定されたテキストの該当箇所	4 時間

		を行う。	をみて整理しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第8回	対面	・総合的な学習(探究)の時間の授業計画と学習活動の工夫①（各教科や道徳科、特別活動との関連） ▶ 各教科や道徳科、特別活動との関連を意識しながら授業内容を構想する。	事前学修：第7回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第9回	対面	・総合的な学習(探究)の時間の授業計画と学習活動の工夫②（様々な学習方法、授業形態についての理解） ▶ 探究学習に関連する様々な学習方法について理解し、単元計画や学習指導案の作成に活用する。	事前学修：第8回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第10回	対面	・総合的な学習(探究)の時間における学習状況の評価と留意点 ▶ 総合的な学習(探究)の時間における様々な評価方法を学び、評価における留意点について理解する。	事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第11回	対面	・総合的な学習(探究)の時間における教材及び資料の活用①（協働的な学び、探究学習における調査や研究方法） ▶ 探究学習に関わる様々な教材や資料（データ活用を含む）について、その特徴を活かした学習方法や調査方法を学ぶ。	事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第12回	対面	・総合的な学習(探究)の時間における教材及び資料の活用②（ICTを利活用した新しい学習内容と指導法） ▶ ICTを利活用した授業実践について学び、ICT教材や資料を導入して授業内容を構想できるようにする。	事前学修：第11回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第13回	対面	・総合的な学習(探究)の時間を中核とした家庭及び地域社会との連携 ▶ 探究学習を通じて家庭や地域とどのように連携をとっていく必要があるのかについて、実践事例を基に具体的に学ぶ。	事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、探究学習の成果について報告できるように準備しておくこと。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第14回	対面	・授業実践② ▶ これまでの研究成果についての発表を行う。 ▶ 相互評価を行うことにより、探究学習の内容を深める。	事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。 事後学修：相互評価で指摘を受けたことやアドバイスについては、適宜メモを取るなどして、復習を行っておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	・授業の総括（オンデマンド授業） ▶ 授業で学んできたことの要点整理・復習を行う。	事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。 事後学修：これまで授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間

科目名	特別活動論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。		
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1) 特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2) 教育課程における特別活動の位置づけや他領域との関係を理解し、その内容（学級活動、生徒会活動、学校行事など）の特質を理解する。 3) 特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	授業内でその都度指示する ※ 授業の配付資料は事前に授業支援システム「Learning Portal」にアップしておくので事前・事後学習に活用すること。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東山書房、2018 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東京書籍、2019 年 ③生徒指導提要（令和 4 年 12）、文部科学省、東洋館出版社、2023 年	ISBN	①9784827815627 ②9784487286355 ③9784877302740
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	授業内のグループワークやレポート（考察）などの提出が中心なので、授業に積極的に参加することが最重要である。
--------------	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第2回	対面	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第6回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第7回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第8回	対面	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第9回	対面	学校行事	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第10回	対面	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第11回	対面	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第12回	対面	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第13回	対面	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第14回	対面	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間

科目名	特別活動論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。		
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1）特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2）教育課程における特別活動の位置づけや他領域との関係を理解し、その内容（学級活動、生徒会活動、学校行事など）の特質を理解する。 3）特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	授業内でその都度指示する ※ 授業の配付資料は事前に授業支援システム「Learning Portal」にアップしておくので事前・事後学習に活用すること。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東山書房、2018 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東京書籍、2019 年 ③生徒指導提要（令和 4 年 12）、文部科学省、東洋館出版社、2023 年	ISBN	①9784827815627 ②9784487286355 ③9784877302740
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	授業内のグループワークやレポート（考察）などの提出が中心なので、授業に積極的に参加することが最重要である。
--------------	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第2回	対面	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第6回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第7回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第8回	対面	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第9回	対面	学校行事	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第10回	対面	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第11回	対面	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第12回	対面	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第13回	対面	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第14回	対面	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間

科目名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	開講年度	2025
担当者	北川 剛司	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育学の立場から提案された主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は以下の4点である。 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自が調べた内容を授業において発表する。その内容について学生の相互評価、および教員からのその都度評価を行う。 作成したレポートや指導案などは授業内で取り上げ、評価及び改善点を示します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『授業実践コンピテンシーを育む 教育方法論』、高木啓・熊井将太編、北大路書房、2025 年 2 月（刊行予定） * 2 月刊行予定の書籍です。本科目は 8 月の集中講義なので、万が一、4 月時点に入手できない場合であっても、8 月の授業には確実に刊行されますので授業開始までに入手してください。 * テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすめられませんので、必ず購入してください。	ISBN	①9784762832741
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	10
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法	予習：今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく（120分） 復習：授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく（120分）	4時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論	予習：学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。（120分） 復習：それぞれが分担した学習内容項目について、文献等で調べる。（240分）	6時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第7回	対面	学習評価の理論	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間

第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①(情報通信機器の活用)	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	2時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②(指導事例等)	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。(120分) 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。(120分)	4時間
第15回	オンデマンド	情報通信機器を活用した授業の構想③(指導案等作成)	予習：今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする(120分) 復習：教育方法に関する学習内容に関しての自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる(120分)	4時間

科目名	生徒指導・進路指導論	開講年度	2025
担当者	市原 由美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力の育成と向上		
授業の目的及び概要	生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。 1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。 2) 上記1) の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。 3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応について基本的な考え方を理解する。 4) 思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて、新しい「生徒指導提要」に基づいて理解する。 2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。 4) 生徒が自らの生きる道（＝進路）を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①座して聞くだけの授業ではなく、受講生に発言、発表の機会を毎時間設ける。さらに受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。 ②各自の課題に対する意欲や成果を授業時に明らかにし、受講生全体の中で評価する。 ③共同作業や討議の内容を発表することで互いに成果を確認し、自分自身にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など	ISBN	定まったテキストは使用しない
参考書	新「生徒指導提要」（文部科学省） 学習指導要領（文部科学省）	ISBN	4491051755
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界全体に経済格差が一層広がり、子どもたちの人権が尊重されない現在において、教育は非常に多くの課題を抱えている。そしてこの社会を凝縮したような状態が学校現場で広がっている。教師自らが現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが大きく問われており、さらに子どもたちに解決の力を養っていくことが求められている。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点をまとめ、授業で発表できるようにしておく。 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方をまとめる。	4 時間
第2回	対面	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導「校則」について考える	事前 今日の生徒の学校生活・暮らしの状況、その意識などを知り気づいたことを書きとめる。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考え、意見をまとめる。	4 時間
第3回	対面	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り、生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考え、授業発表の準備をする。 事後 他の学生の発表を聞いて参考にし、生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方の実践的課題をまとめる。	4 時間
第4回	対面	生徒の発達段階と課題 ①不登校、ひきこもりなど	事前 不登校・ひきこもりの現状、各生徒の思いや課題を事例を通して理解し、授業案を作成する。 事後 各授業案の発表を聞いて、不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を再度確認し、自らの授業案を修正する。	4 時間
第5回	対面	生徒の発達段階と課題 ②発達障害など	事前 発達障害の実態を把握する。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考え、どのように関わっていくのか考えをまとめる。	4 時間
第6回	対面	集団生活と生徒指導 ①いじめ問題	事前 いじめ問題の実態と背景を示した事例を読んでおく。 事後 授業で作成した自分の指導案の問題点を修正する。	4 時間
第7回	対面	集団生活と生徒指導 ②学級づくり、学級のとりくみ	事前 事例を読んでおく。 事後 各学生が学級指導の課題と指導の問題点について発表した内容を振り返り、整理する。	4 時間
第8回	対面	集団生活と生徒指導 ③学年、学校のとりくみ	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考え、授業で発表できるように準備をする。 事後 各学生の発表を聞いて、生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方についてまとめる。	4 時間
第9回	対面	集団生活と生徒指導 ④部活動	事前 部活動の実態を紹介した新聞記事を読み、自分の意見を授業で言えるように準備する。 事後 授業発表を聞くとともに、国が現在示している部活動の指導の変更をよく理解し、自分で課題をまとめる。	4 時間
第10回	対面	家庭の問題と生徒指導	事前 保護者・家庭と教職員の関係を紹介した事例をよく読んで、意見を言えるように準備する。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの大切さを認識し、実践的課題をまとめる。	4 時間

第11回	対面	教職員・教職員集団の在り方と生徒指導	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・協同関係を示す事例を読んでおく。 事後 事例に対する各自の意見を聞いて、現場での教職員相互の協同関係づくりをどうすればよいか自分の意見をまとめる。	4 時間
第12回	対面	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、進路指導とは何かを発表できるように準備する。 事後 学校現場で本来の進路指導が行えるために、何を今しておかなければならないのかまとめる。	4 時間
第13回	対面	進路を切り拓く学習（学力保障）のあり方	事前 キャリア教育とは何かを知り、人間にとっての学習・学力について考え発表できるように準備する。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認し、課題を明確にしてその指導に必要な力をどうつけるのかまとめる。	4 時間
第14回	対面	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 キャリア教育・進路指導の実践事例を参考にして指導案を立て、発表する。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導の課題を理解し、現場に出るまでに今何を学ばないといけないか課題をまとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 今日の生徒指導・進路指導の実態と課題を振り返る 事後 まとめを通して、生徒指導、進路指導の基本的知識を定着させ自分の考えを構築する。	4 時間

科目名	生徒指導・進路指導論	開講年度	2025
担当者	市原 由美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力の育成と向上		
授業の目的及び概要	生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。 1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。 2) 上記1) の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。 3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応について基本的な考え方を理解する。 4) 思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて、新しい「生徒指導提要」に基づいて理解する。 2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。 4) 生徒が自らの生きる道（＝進路）を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①座して聞くだけの授業ではなく、受講生に発言、発表の機会を毎時間設ける。さらに受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。 ②各自の課題に対する意欲や成果を授業時に明らかにし、受講生全体の中で評価する。 ③共同作業や討議の内容を発表することで互いに成果を確認し、自分自身にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など	ISBN	定まったテキストは使用しない
参考書	新「生徒指導提要」（文部科学省） 学習指導要領（文部科学省）	ISBN	4491051755
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界全体に経済格差が一層広がり、子どもたちの人権が尊重されない現在において、教育は非常に多くの課題を抱えている。そしてこの社会を凝縮したような状態が学校現場で広がっている。教師自らが現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが大きく問われており、さらに子どもたちに解決の力を養っていくことが求められている。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点をまとめ、授業で発表できるようにしておく。 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方をまとめる。	4 時間
第2回	対面	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導「校則」について考える	事前 今日の生徒の学校生活・暮らしの状況、その意識などを知り気づいたことを書きとめる。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考え、意見をまとめる。	4 時間
第3回	対面	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り、生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考え、授業発表の準備をする。 事後 他の学生の発表を聞いて参考にし、生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方の実践的課題をまとめる。	4 時間
第4回	対面	生徒の発達段階と課題 ①不登校、ひきこもりなど	事前 不登校・ひきこもりの現状、各生徒の思いや課題を事例を通して理解し、授業案を作成する。 事後 各授業案の発表を聞いて、不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を再度確認し、自らの授業案を修正する。	4 時間
第5回	対面	生徒の発達段階と課題 ②発達障害など	事前 発達障害の実態を把握する。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考え、どのように関わっていくのか考えをまとめる。	4 時間
第6回	対面	集団生活と生徒指導 ①いじめ問題	事前 いじめ問題の実態と背景を示した事例を読んでおく。 事後 授業で作成した自分の指導案の問題点を修正する。	4 時間
第7回	対面	集団生活と生徒指導 ②学級づくり、学級のとりくみ	事前 事例を読んでおく。 事後 各学生が学級指導の課題と指導の問題点について発表した内容を振り返り、整理する。	4 時間
第8回	対面	集団生活と生徒指導 ③学年、学校のとりくみ	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考え、授業で発表できるように準備をする。 事後 各学生の発表を聞いて、生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方についてまとめる。	4 時間
第9回	対面	集団生活と生徒指導 ④部活動	事前 部活動の実態を紹介した新聞記事を読み、自分の意見を授業で言えるように準備する。 事後 授業発表を聞くとともに、国が現在示している部活動の指導の変更をよく理解し、自分で課題をまとめる。	4 時間
第10回	対面	家庭の問題と生徒指導	事前 保護者・家庭と教職員の関係を紹介した事例をよく読んで、意見を言えるように準備する。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの大切さを認識し、実践的課題をまとめる。	4 時間

第11回	対面	教職員・教職員集団の在り方と生徒指導	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・協同関係を示す事例を読んでおく。 事後 事例に対する各自の意見を聞いて、現場での教職員相互の協同関係づくりをどうすればよいか自分の意見をまとめる。	4 時間
第12回	対面	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、進路指導とは何かを発表できるように準備する。 事後 学校現場で本来の進路指導が行えるために、何を今しておかなければならないのかまとめる。	4 時間
第13回	対面	進路を切り拓く学習（学力保障）のあり方	事前 キャリア教育とは何かを知り、人間にとっての学習・学力について考え発表できるように準備する。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認し、課題を明確にしてその指導に必要な力をどうつけるのかまとめる。	4 時間
第14回	対面	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 キャリア教育・進路指導の実践事例を参考にして指導案を立て、発表する。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導の課題を理解し、現場に出るまでに今何を学ばないといけないか課題をまとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 今日の生徒指導・進路指導の実態と課題を振り返る 事後 まとめを通して、生徒指導、進路指導の基本的知識を定着させ自分の考えを構築する。	4 時間

科目名	教育相談論	開講年度	2025
担当者	上松 幸一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談		
授業の目的及び概要	・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。 ・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。この観点を基本として、まず教育相談の教育現場で必要な課題意識や理論、方法について学習する。 具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識（意義・理論・技法）などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。質問などがあれば、次回の授業に補足説明を行います。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭専修免許状、臨床心理士、公認心理師の資格を有し、児童相談所において、心理判定員及び児童福祉司の経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	森田健宏・吉田佐治子 編著 よくわかる！教職エクササイズ 教育相談「第2版」 ミネルヴァ書房	ISBN	ISBN 978-4-623-09611-4
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。 また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。 積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション、および現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、自死や不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	事前に、現状の教育課題は何かをインターネット等で調べる。自分なりの現状の教育課題についての考えを整理しておく。 授業後は、授業で学修した内容を復習しておく。	3時間
第2回	対面	カウンセリングの理論について解説を行う。 また心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。 カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	事前に、教育相談について関連書物やインターネット等で調べる。自身のこれまでの学校での体験例などをもとに教育相談の重要性を考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第3回	対面	カウンセリングの技法について、解説を行う。また履修者とともに、実際にカウンセリングの技法を体験学習する。	カウンセリングの技法について、事前にインターネットなどを通して調べておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第4回	対面	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	事前に、いじめについて関連書物やインターネット等で調べる。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第5回	対面	不登校、および非行に関する学校の現状を解説する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。	事前に、不登校や非行についての現状について、インターネット等で調べる。また、その効果について考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第6回	対面	教育現場における自殺、虐待について解説を行う。	事前に児童虐待や自殺に関する関連書物やインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第7回	対面	教育現場において発達障害を抱える児童生徒の問題と対応について解説を行う	事前に、発達障害について調べておくこと。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第8回	対面	教育現場において、児童生徒が抱える心の病について解説を行う。	事前に、児童生徒の心の病についてインターネットなどを通して調べておく。	3時間
第9回	対面	教育相談における心理検査について解説を行う。また心理検査の一つを体験してみる	事前に、心理検査についてどのようなものがあるのかを調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第10回	対面	教育相談場面における行動観察・面接法について解説を行う。	事前に、行動観察法・面接法について調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第11回	対面	保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	事前に、保護者との教育相談とはどのようなものか、家族の抱える問題にどのようなものがあるかを、自身で考えるとともにインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第12回	対面	校内連携・専門機関や地域との連携について解説を行う。	校内連携、専門機関や地域との連携に関して、学校がどのような機関と連携をとるのかを調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第13回	対面	グループで事例検討を行い、どのような教育相談の進め方が適切なのかを考える。	事前に、事例検討に必要な考え方を調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第14回	対面	教師のメンタルヘルスについて解説を行う。また自分たちが教師となった際にどの	事前に、メンタルヘルスについて調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間

		ように精神的な安定を確保するのかを考える。		
第15回	オンデマンド	本授業で学修したこれまでの内容を整理する。教育相談の意義と役割、教育相談に役立つ理論や方法、カウンセリングの基礎的知識や技法、教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性などを理解したかを確認する。	オンデマンドを視聴して、これまで学んだ内容について、自分なりの整理をする。試験に向けて、今後の自身の取り組みたい内容について考え整理しておく。	3時間

科目名	教育実践指導論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り		
授業の目的及び概要	3年次の教育実践指導論と4年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまで学んだことをふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省、東山書房、平成29年 ②高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）、文部科学省、東山書房、平成30年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないのが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に帰ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択」し、「実践と省察」をくり返す体験をととして「成長」してきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え（4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務） ③教育実習にむけて、課題を捉えなおす	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	対面	教育実習にむけて各自の課題を発表	授業で指摘された課題を、学習指導と生徒指導に分けて整理する。	4時間
第3回	対面	教育実習に向けて 学習指導案、日誌や記録の書き方を整理する	これまで作成した指導案などについて、指摘された問題点などを整理する。	4時間
第4回	対面	模擬授業の発表 中学校 道徳 特別活動	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第5回	対面	模擬授業 高等学校 特別活動 総合的な学習の時間	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第6回	対面	模擬授業 中学社会科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第7回	対面	模擬授業 高等学校 地理歴史科 公民科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第8回	対面	教育実習の記録を整理する	教育実習を総括し、成果と課題について文章にまとめる。	4時間
第9回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	オンデマンド	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実践指導論	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り		
授業の目的及び概要	3年次の教育実践指導論と4年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学んだことをふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省、東山書房、平成29年 ②高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）、文部科学省、東山書房、平成30年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に帰ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択」し、「実践と省察」をくり返す体験をととして「成長」してきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え（4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務） ③教育実習のイメージ化（自身にとっての教育実習の課題を考える）	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	対面	①学校の長い1日（教員の学校勤務の実際） ②学校経営と校務分掌（組織体としての学校とその実際） ③教職員、生徒との接し方（「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識）	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。	4時間
第3回	対面	①実習日誌の記録（書くことの意義、記入項目と記入方法、活用） ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題（教育実習における達成課題を設定する）	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうしで各自の弱点をおさえながらふり返る。	4時間
第4回	対面	①ホームルーム指導の実務（特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標） ②「クラスづくり」の実践例（読み合わせと分析）	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する実践記録から保護者との連携の意味について考察する。	4時間
第5回	対面	①ホームルーム指導の実務（学校行事の目的と意義、進め方、） ②学年担任団の役割（学年集団の指導と連携） ③保護者との連携（信頼と協力） ④課題（次回の学習指導案の目標、ねらいの設定）	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる－朝鮮戦争と冷戦－」をもとに、授業プランを構想する。	4時間
第6回	対面	①学習指導案の作成（中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成）	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。	4時間
第7回	対面	①資料（文字・図・映像）の作成と使い方（PCを使用した教材の作成とプロジェクターによる活用）	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。	4時間
第8回	対面	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	中学・高校の教科書や資料を参考にして、板書メモをつくる。	4時間
第9回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する授業展開を考える	教科書の内容をまとめる。	4時間
第10回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する発問・指示を考える	授業展開を練習する。	4時間

第11回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する 学習活動を考える	授業時の学習活動を予測・整理する。	4 時間
第12回	対面	模擬授業の発表 中学校の授業	模擬授業の内容について講評する。	4 時間
第13回	対面	模擬授業の発表 高等学校 地理歴史科 の授業	模擬授業の内容について講評する。	4 時間
第14回	対面	模擬授業の発表 高等学校 公民科の授 業	模擬授業の内容について講評する。	4 時間
第15回	オンデ マンド	模擬授業の振り返り	「教育実習」にむけて自身の課題を明確にする。	4 時間

科目名	教育実習 I	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	実習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育現場での学習指導や生徒児童の実体験の中から、授業の内容や方法、生徒理解や生徒とのかわり方について学ぶ		
授業の目的及び概要	高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実 に即して修得する。 ③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。 ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実 に即した理解と学修を目指してほしい。		

	・実習校の指導にしがたい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。
--	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などで確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間

第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間
------	--------	--	---------------------------------------	-----

科目名	教育実習Ⅱ		開講年度	2025
担当者	田中 曜次		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	—		授業方法	実習
科目区分	教職課程科目			
テーマ	教育現場の実体験から、授業の実践や生徒とのかかわり方、教員間の連携などについて学ぶ			
授業の目的及び概要	中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。			
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。 ③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。			
テキスト	特に指定しない。		ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年		ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。 ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が			

	求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。
--	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などを確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間

第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間
------	--------	--	---------------------------------------	-----

科目名	教職実践演習	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。		
授業の目的及び概要	この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことである。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したことの振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。 その際、講義や演習（報告、発表、討論）、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ教育現場を意識した課題を取り扱う。 前半部分（第1回～第8回）では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など＜自己の経験＞と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。 後半部分（第9回～第14回）においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる資質を身につけている。 そうした資質形成の確認を、以下の3点を学修する。 ①教師としての使命感、責任感、教育的愛情を身につける。 ②教師としての社会性、対人関係の能力の必要性を理解することができる。 ③教科の指導力や生徒理解の力などについて具体的に考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、演習期間中にコメントや論評を行う。演習後半部分のものについては、演習の中で行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成29年告示），文部科学省，東山書房，2020年 ②高等学校学習指導要領（平成30年告示），文部科学省，東山書房，2018年 ③中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672 ③9784491034713
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるとよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。この科目の単位取得なしでは、教員免許取得申請はできない。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見 「ふり返し」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前：「事前レポート」の作成 事後：『事前レポート』の加筆、修正	4 時間
第2回	対面	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論 本演習における今後の自己目標の設定	事後： 「事前レポート」の完成	4 時間
第3回	対面	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。	事後： 演習内容をふまえて、「レポート」の作成	4 時間
第4回	対面	「私の考える「教師の仕事」」としてレポート作成 (第5回目までに完成させ、持参する)	事後： 「レポート」の完成	4 時間
第5回	対面	前回に作成したレポートに基づく報告と討論	事後： 演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り	4 時間
第6回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前： 学校の保護者対応に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4 時間
第7回	対面	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)	事後： 学級経営や保護者対応の現状と課題についての整理と振りかえり	4 時間
第8回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学校現場における今日的課題に関する講演と質疑	事前： 学校教育における今日的課題に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4 時間
第9回	対面	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4 時間
第10回	対面	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4 時間
第11回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4 時間
第12回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4 時間
第13回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4 時間
第14回	対面	全授業を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り	事後： 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認	4 時間
第15回	オンデマンド	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの	事後： 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成	4 時間

2025/05/01

		課題の確認		
--	--	-------	--	--

科目名	社会・地理歴史科教育法	開講年度	2025
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。 ・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。 ・なお、本講義では第 1～15 回を地理教育分野、第 16～30 回を歴史教育分野に学修内容を分けて進めるものとする。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。 ①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 ②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 ③地理歴史科の授業の実践について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。 2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。 3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	9784491036410
参考書	①高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），文部科学省，東山書房，2018 年 ②中学校学習指導要領（平成 29 年告示），文部科学省，東山書房，2017 年 ③中学校学習指導要領（平成 29 年）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018 年 ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社，2021 年	ISBN	①9784827815672 ②9784827815795 ③9784491034713 ④9784491047010
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。 ・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。 ・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	地理教育の意義と課題① ▶ 日本の地理教育における歩み、「地理総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 本講義のシラバスを熟読し、授業内容について予習を行ってくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第2回	対面	地理教育の意義と課題② ▶ 学習指導要領および教科書における地理教育の特徴 ▶ 地理総合と地理探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第3回	対面	日本と諸外国の地理教育 ▶ 地理教育における日本と諸外国との比較 ▶ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第4回	対面	地理教材の活用法①（地理的スキル①） ▶ 地誌学習の意義と役割 ▶ GIS システムなど ICT を活用した地誌学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第5回	対面	地理教材の活用法②（地理的スキル②） ▶ 学習内容に応じた教材選定のポイント ▶ GIS システムなど ICT を活用した地理学習（主題学習、動態地誌）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4 時間
第6回	対面	地理教育における様々な評価方法 ▶ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに	4 時間

			復習を行ってくることを。	
第7回	対面	統計調査や野外調査の分析と考察(地理的スキル③) ▷ 地理各種統計調査や野外調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(地理総合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②(地理総合) ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。作成した学習指導案を発表できるように準備してくることを。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第10回	対面	授業実践①(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ GIS システムなど ICT を活用した模擬授業の実践(地理総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第11回	対面	授業実践②(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 統計調査を活用した模擬授業の実践(地理探究)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第12回	対面	ハザードマップの作成と防災教育(地理的スキル④) ▷ 重ねるハザードマップの活用例	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第13回	対面	授業実践③(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 日本地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第14回	対面	授業実践④(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 世界地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間

第15回	オンデマンド	地理教育における授業の総括(オンデマンド授業) ▶ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 これまでの授業内容について総復習を行っておくこと。 事後 理解が不十分だったところや要点などをノートにまとめておくこと。	4時間
第16回	対面	歴史教育の意義と課題① ▶ 日本の歴史教育における歩み、「歴史総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第17回	対面	歴史教育の意義と課題② ▶ 学習指導要領および教科書における歴史教育の特徴 ▶ 歴史総合と世界史探究、日本史探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第18回	対面	日本と諸外国の歴史教育 ▶ 歴史教育における日本と諸外国との比較 ▶ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第19回	対面	歴史教材の活用法①(歴史的スキル①) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(日本)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第20回	対面	歴史教材の活用法②(歴史的スキル②) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(海外)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第21回	対面	歴史教育における様々な評価方法 ▶ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第22回	対面	文献および各種調査、客観的データの分析と考察(歴史的スキル③) ▶ 歴史的資料や各種調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第23回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(歴史総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむ	4時間

		▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	こと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	
第24回	対面	授業の計画と学習指導案作成②（歴史総合） ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第25回	対面	授業実践①（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（歴史総合）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第26回	対面	授業実践②（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第27回	対面	授業実践③（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第28回	対面	授業実践④（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ ビジュアル教材を活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第29回	対面	授業実践⑤（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ フィールドワークを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくることを。	4 時間
第30回	オンデマンド	歴史教育における授業の総括（オンデマンド授業） ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 授業で取り上げた基本的事項について一通り復習を行ってくることを。 事後 本授業で出されたプリントなどを中心に復習を行っておくこと。	4 時間

科目名	社会・公民科教育法		開講年度	2025
担当者	手取 義宏		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	4 単位
グレード	—		授業方法	講義
科目区分	教職課程科目			
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり			
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所ですりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。			
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）		ISBN	4487286336
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		40	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていきたい。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第2回	対面	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第3回	対面	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第4回	対面	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第5回	対面	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第6回	対面	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第7回	対面	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第8回	対面	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第9回	対面	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第10回	対面	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第11回	対面	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第12回	オンデマンド	復習：社会科・公民科の授業づくりのポイント	映像を視聴してワークシートの課題に取り組んでももらいます。	4 時間
第13回	対面	授業の実践例（公共）① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第14回	対面	授業の実践例（公共）② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第15回	対面	授業の実践例（公共）③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第16回	対面	授業の実践例（公共）④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第17回	対面	授業の実践例（公共）⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第18回	対面	授業の実践例（倫理）① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第19回	対面	授業の実践例（倫理）② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第20回	対面	授業の実践例（倫理）③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第21回	対面	授業の実践例（倫理）④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第22回	対面	授業の実践例（倫理）⑤ 「倫理」授業の	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大ま	4 時間

		小括	かな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	
第23回	対面	授業の実践例（政治・経済）① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第24回	対面	授業の実践例（政治・経済）② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第25回	対面	授業の実践例（政治・経済）③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第26回	対面	授業の実践例（政治・経済）④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第27回	対面	授業の実践例（政治・経済）⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4 時間
第28回	対面	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4 時間
第29回	オンデマンド	発展的な学習内容とその指導 探究と PBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4 時間
第30回	対面	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	4 時間